



コロナ禍における 学生生活調査

2021

茨城大学人文社会科学部法律経済学科
労働経済論ゼミナール

茨城大学学生団体 学びと交流の秘密基地

監修 清山玲（茨城大学人文社会科学部教授）



【照会先】

本調査へのお問い合わせは、星龍汰
(「コロナ禍における学生生活調査 2021」プロジェクト代表) までお願いします。

E-mail: 19l2098n@vc.ibaraki.ac.jp

長引くコロナ禍での学生生活の実態をお届けします

昨年に引き続き、茨大生を対象に新型コロナウイルスによる学生生活への影響調査を実施し、685人から回答を得ました。

調査内容は、経済状況、アルバイト、経済支援、食の事情と食料支援、部活動・サークル・課外活動、授業、留学生についてです。

コロナ禍の長期化により、私たち大学生は約1年半もの間、様々な制約を断続的に受け続けています。本調査を継続することにより、昨年からの変化も含めて、経済的に厳しい学生や、課外活動・友人関係等に不安を抱える学生たちのリアルな暮らしの状況について、調査結果を取りまとめました。

子どもの貧困問題とその支援については社会的理解が深まっていますが、子どもの範疇から外れてしまいがちな大学生の厳しい経済状況についての社会的理解は未だ十分とは言えません。そこで当事者である私たちが、コロナ禍の中で厳しい状況にある大学生が相当数いることを明らかにしたいと考えました。茨城大学でも、授業料減免、給付型奨学金、食糧支援など多様な支援メニューが準備されるようになってきました。しかし、そうした支援策を得ても、あるいは支援策の網の目から漏れてしまい、非常に厳しい状況におかれている学生たちがいます。

コロナ禍の下での大学生の暮らしの実態を理解し、今後の大学生を対象とする支援活動にご活用くださると嬉しいです。

本調査は、「茨城大学学生団体 学びと交流の秘密基地」が企画し、労働経済論ゼミナールとの共同プロジェクトとして実施しました。調査実施にあたっては、茨城県共同募金会の地域福祉特別助成金の一部を使わせていただきました。また、茨城大学市民共創教育研究センターの後援により、調査票（Forms のリンク）の周知・配信面でご高配を賜ることができました。心より感謝申し上げます。

私たち労働経済論ゼミナールでは、2014年に、「茨城大学学生団体 学びと交流の秘密基地」を立ち上げ、子どもの学習支援活動、子どもの貧困問題に関するシンポジウムの開催や講演、茨城県を始めとする県内自治体の学習支援事業立ち上げへの協力などを学生団体の活動として行ってきました。

今年は本調査に加えて、コロナ禍が県内学習支援団体に及ぼした影響に関する調査、対面での学習支援に替えて緊急事態宣言下でのオンライン学習支援を実施しました。

これらの活動には、茨城 NPO センター・コモンズ、フードバンク茨城、茨城県生活協同組合連合会、茨城県、水戸市、水戸市教育委員会、(株) ゴールデンハーベスト、その他県内の多くの団体・個人の皆様方からご支援を賜り、また連携して活動してまいりました。これまで、花王ハートポケット倶楽部、茨城県青少年育成協会、茨城県共同募金会、茨城県学校生活協同組合の皆様方から助成金を賜り、OBOG からの募金を加え、何とか活動を継続することができています。皆様の支援に心より感謝申し上げます。

来年度以降も活動を継続できるように、地域の皆様方には、今後とも温かいご支援とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2021 年 12 月吉日

茨城大学 人文社会科学部 労働経済論ゼミナール
茨城大学学生団体 学びと交流の秘密基地

目次

1. 調査の概要	1
2. 調査結果の概要	3
3. 調査結果.....	5
1. 経済状況と支援	
(1) 経済状況	6
(2) アルバイト（家計と学業の両立）	9
(3) 経済支援	16
(4) 食の事情と食料支援	19
2. 部活動・サークル・課外活動.....	22
3. 授業.....	27
4. 留学生	30
5. 自由記述.....	31
参考資料〈調査票〉	36

1. 調査の概要

新型コロナウイルスが日本で初確認されてから1年半以上が経過したが、依然として様々な制約が課された生活が続いている。

そこで、私達は茨城大学の学部生を対象に、コロナ禍における大学生活の実態について調査した。調査票の設計にあたっては、大学生への影響を詳しく明らかにできるよう工夫した。

(1) 調査の目的

本調査の目的は、長期化したコロナ禍のなかで茨城大学の大学生の生活事情（経済・課外活動・授業等）や学生向け支援策への要望などに関する基礎資料を得ることである。

(2) 調査日時・方法

- 調査実施時期 2021年7月15日～8月11日
- 調査対象 茨城大学の学部生
- 回収数 685
- 調査方法 Microsoft Forms を用いたアンケート
- 調査項目の概要 属性、住居形態、大学生活（授業・課外活動）、経済生活（アルバイト・仕送り）、学生支援、大学への要望

(3) サンプル特性

学年

	実数（人）	構成比（%）
1年	211	30.8
2年	194	28.3
3年	171	25.0
4年	109	16.0
総計	685	100.0

学部

	実数（人）	構成比（%）
人文社会科学部	579	84.5
教育学部	23	3.4
工学部	28	4.0
理学部	47	6.9
農学部	8	1.2
総計	685	100.0

学科（人文社会科学部のみ）

	実数（人）	構成比（％）
現 代 社 会 学 科	189	32.6
法 律 経 済 学 科	263	45.4
人 間 文 化 学 科	127	21.9
総 計	579	100.0

性別

	実数（人）	構成比（％）
男	323	47.2
女	354	51.7
そ の 他	8	1.2
総 計	685	100.0

住居形態

	実数（人）	構成比（％）
実家	296	43.2
一人暮らし（賃貸）	338	49.3
寮	25	3.6
一人暮らしだったが、コロナの影響で現在は実家	13	1.9
一人暮らしをする予定だったが、コロナの影響で実家	8	1.2
その他	5	0.7
総計	685	100.0

2. 調査結果の概要

- 本調査では、回答した 685 人のうち 86%の学生が、新型コロナ感染拡大の影響で学生生活に支障が出ていると回答した。《p.5》
- 学生生活を送る上で困っていて、支援してほしいこととして、3 人に 1 人が「サークル活動」4 人に 1 人が「学生同士で交流できるイベント」5 人に 1 人が「食料支援」・「授業料の減免」・「就職活動」・「生活支援給付金」を選択した。《p.5》

〈経済状況〉

- ① 一人暮らし学生の生活費は、月平均およそ 60,000 円だった。《p.6》
- ② 医療機関の受診をためらったことのある一人暮らし学生は、7 人に 1 人だった。《p.7》
- ③ 学生が実際に支払いを滞納したものは水道光熱費が最多であり、14 人いた。《p.7》
- ④ 経済的な理由から食生活に問題が生じた経験のある学生は 5 人に 1 人であり、特に一人暮らしの学生では 3 人に 1 人であった。《p.8》
- ⑤ 経済的な理由により、現在も休学や退学を検討している学生も少数ながら存在する。《p.8》

〈アルバイト（学業と家計の両立）〉

- ① 現在アルバイトを行っているとは回答した学生は約 60%であり、頻度は週 3 日、月収は 4 万円台が多い。《p.9》
- ② アルバイトをする一人暮らし学生の半数が、経済的な心配がなければアルバイトの頻度を減らしたいと考えている。《p.11》
- ③ 4 人に 1 人の学生が、「アルバイトのために学業面で支障が出ている」と回答した。《p.11》
- ④ コロナ禍以降にアルバイト経験がある学生の半数近くが、感染拡大によってシフトが減などの悪影響を受けている。《p.12》
- ⑤ アルバイトをする学生の 4 人に 1 人が、コロナの影響で収入が減少した。《p.13》
- ⑥ 月収減少額（最大）の平均は 31,422 円であり、昨年度調査から 1,186 円増加した。《p.14》
- ⑦ 収入減が長期化し、今年度に入ってもなお減収が続いている学生が存在する。《p.15》

〈経済支援〉

- ① 大学入学以降で、新型コロナウイルス感染拡大に係る緊急経済支援を受けたことがある学生は 10 人に 1 人であり、一人暮らし学生の割合が高い。《p.16》
- ② 緊急経済支援を受けたことがある学生の満足度は高い一方、申請を却下された学生は不満を抱いている。《p.17》

- ③ 経済支援に不満を感じる学生の 63.5%が、その理由として「募集人数が少ないから」と回答。《p.17》
- ④ 経済支援に対して、改善を求める声が寄せられた。《p.18》

〈食の事情と食料支援〉

- ① 一人暮らしをしている学生の食費は、月平均 20,793 円だった。《p.19》
- ② 自治体や大学の食料支援を受けた経験のある学生は 4 人に 1 人、一人暮らし学生では 2 人に 1 人だった。《p.19》
- ③ 食料支援は一人暮らし学生への一定の効果がみられたが、告知方法や日程に関する新たな課題も明らかになった。《p.20》
- ④ 要望として、「告知をもっと早くしてほしい」「複数日に分けて開催してほしい」などの意見があった。《p.21》
- ⑤ 食料支援に対して、学生からは感謝の声が多く寄せられた。《p.21》

〈部活動・サークル・課外活動〉

- ① 学生間交流の不足から、人間関係に不安を抱えている学生が 2 年生に多かった。《p.22》
- ② 1 年生の 5 人に 1 人、2 年生の 7 人に 1 人が、サークルに加入したくてもできていない。《p.23》
- ③ サークルに加入できていない理由として、情報の不足やタイミングを挙げる回答が多かった。《p.23》
- ④ コロナ禍におけるサークル活動で困っていることについて、サークル加入者の 57.3% が「毎年参加していた大会やイベントが中止されている」と回答した。《p.24》
- ⑤ 大学の課外活動の方針に対しては、157 件の意見・要望が寄せられた。《p.25》

〈授業〉

- ① 対面授業の頻度には学年差があり、1 年生が突出して多い。《p.27》
- ② 2 年生は対面を希望する学生の割合が高く、3 年生はオンラインを希望する学生の割合が高い。《p.27》
- ③ 通学のデメリットから、実家暮らしの学生は対面を希望する学生の割合が低い。《p.28》
- ④ 各授業形態を希望した理由として、様々な意見が寄せられた。《p.29》

〈留学生〉

- ① 留学生の 75%が、帰国できずに困っていると回答した。《p.30》
- ② 留学後はずっと日本に滞在している学生が多いが、入学以降全く日本に入国できていない留学生も存在する。《p.30》

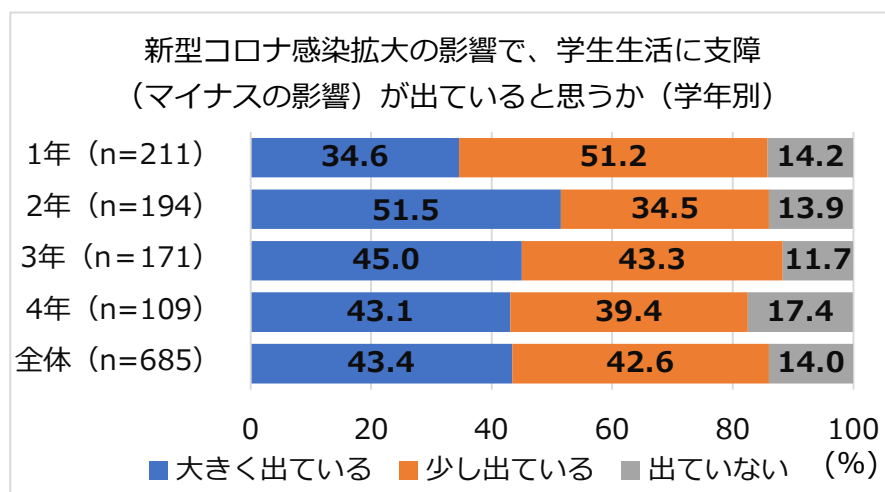
3. 調査結果

1. 経済状況と支援

コロナ禍の影響と求められる支援策の概要

➤ 86%の学生が、新型コロナウイルス感染拡大の影響で学生生活に支障が出ていると回答

新型コロナウイルス感染拡大の影響で学生生活に支障（マイナスの影響）が出ていると思うかという設問に対して、43.4%の学生が「大きく出ている」と回答した。「少し出ている」と回答した学生は42.6%で、合計すると86.0%に上った。「大きく出ている」との回答は2年生に多く、全学年で唯一50%を上回った。1年生では、「少しだけ出ている」との回答が比較的多かった。また、これを性別にみると、男性が82.7%であるのに対して女性は89.0%で、女性の方が7.3ポイント高い結果になった。

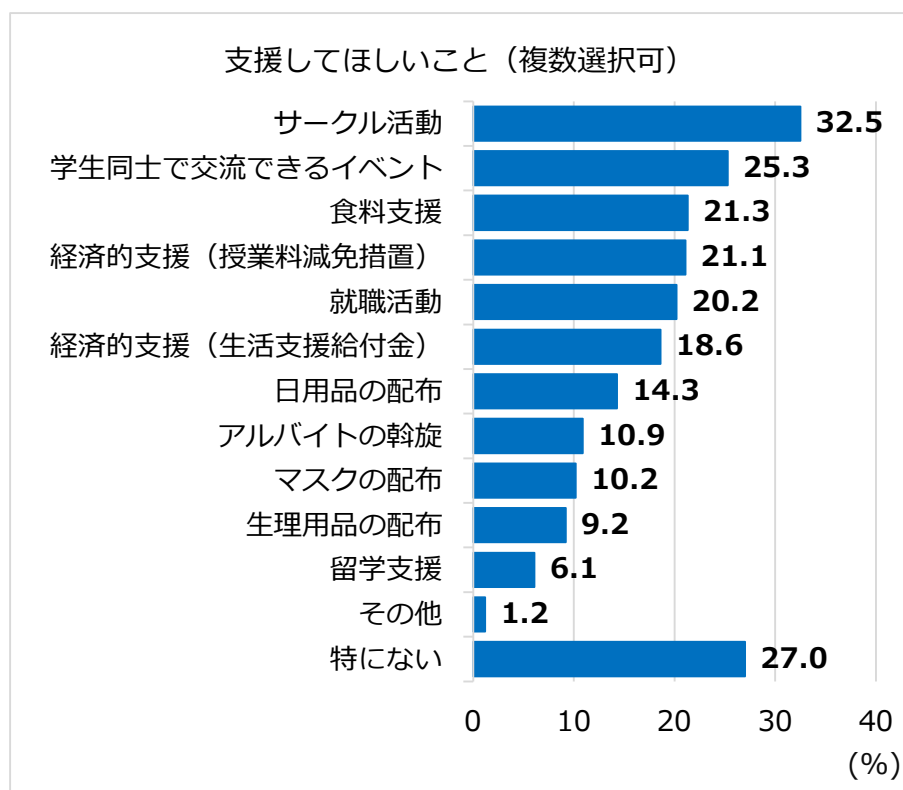


➤ 学生生活を送る上で困っていて支援してほしいこととして、

3人に1人が「サークル活動」 4人に1人が「学生同士で交流できるイベント」

5人に1人が「食料支援」を選択

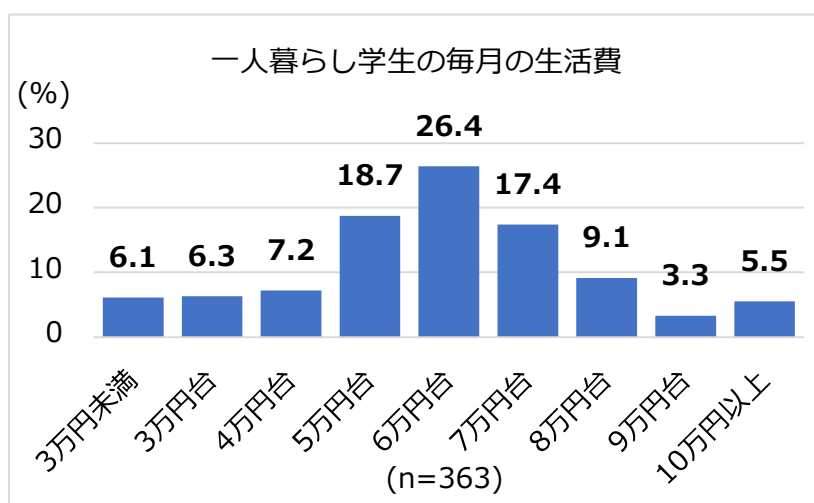
現在学生生活を送る上で困っていて、支援してほしいことを複数選択可で尋ねた。644人から回答を得ることができた。最も多かった回答は「サークル活動」で、32.5%（209人）の学生が選択した。部活動やサークルに所属している学生の約半数が選択した。次に多かったのが「学生同士で交流するイベント」で、25.3%（163人）が選択した。特に1・2年生で3割以上と高かった。3番目に多かったのは「食料支援」で、21.3%（137人）が選択した。一人暮らしの学生や、過去に食料支援を利用した経験がある学生で、選択している割合が高かった。以降は、「経済的支援（授業料減免措置）」が21.1%（136人）、「就職活動」が20.2%（130人）で続き、ここまでが20%を上回った。「経済的支援（授業料減免措置）」は留学生が、「就職活動」は3年生が多く選択する傾向があった。また、「生理用品の配布」は全体だと9.2%だったが、一人暮らしの女性に限定すると22.4%が選択していた。「特にない」と回答した学生は27.0%（174人）だった。



(1) 経済状況

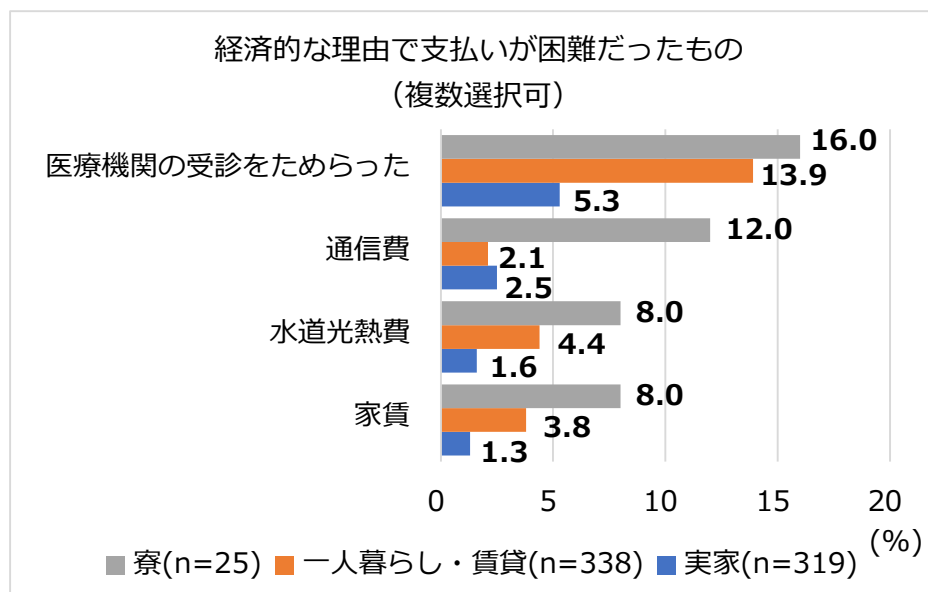
① 一人暮らし学生の生活費は、月平均およそ 60,000 円

賃貸や寮で一人暮らしをする学生 363 人を対象に、毎月の生活費（家賃・電気代・ガス代・水道光熱費・通信費・食費等）について調査した結果、平均額は 59,909 円だった。一人暮らしの中でも、賃貸で生活する学生は 61,133 円、寮生は 43,360 円と差がみられた。中央値は 60,000 円だった。分布は以下の通りで、5 万円台から 7 万円台に 6 割以上が集中している。



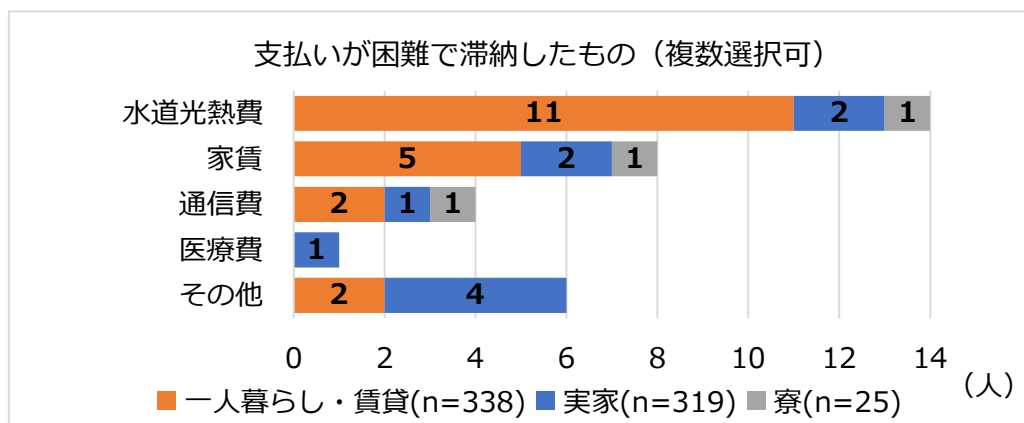
② 医療機関の受診をためらったことのある一人暮らし学生が7人に1人

経済的な理由で支払いが困難だったものを複数選択可で尋ねたところ、医療機関の受診をためらった学生が69人(10.1%)も存在していることが分かった。その割合は、実家生よりも一人暮らし（賃貸・寮）の方が明らかに高く、7人に1人の割合となっている。また、通信費、水道光熱費、そして家賃といった、生活に必要不可欠な費用の支払いに困った学生も2%～3%程存在している。



③ 学生が実際に支払いを滞納したものは水道光熱費が最多

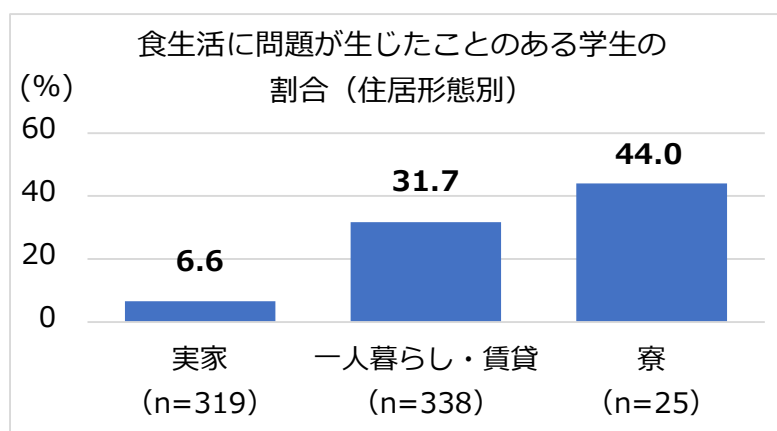
学生が実際に支払いを滞納したものを複数選択可で尋ねたところ、水道光熱費が14人(2.0%)と最も多かった。そのうち一人暮らし（賃貸）の学生が11人と突出して多くっており、厳しい経済状況が伺える。次いで、家賃を滞納した学生が8人(1.2%)いた。その他と回答した学生は、駐車場代やクレジットカードの支払い、そして国民年金保険料を滞納していた。また、滞納した後は、アルバイトや親からの仕送り、給付金などによって対応していることが分かった。



④ 経済的な理由で食生活に問題が生じたことがある学生は5人に1人 一人暮らしでは3人に1人

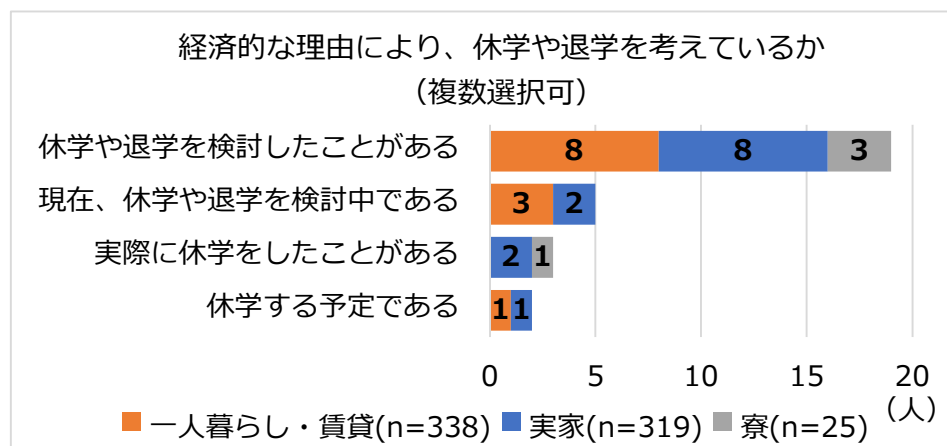
経済的な理由から食生活に問題が生じた経験（複数選択可）がある学生は140人（20.4%）だった。その中で、「食事を抜いたり減らしたりしたことがある」と回答したのは96人、「価格が高くて購入できないために、栄養のバランスが偏っている」が82人、「食料の購入に困ったことがある」が38人だった。

また、食生活に影響が出た割合を住居形態別にみると、寮生が44%（25人中11人）で最も高く、一人暮らし（賃貸）では31.7%（338人中107人）、実家生では6.6%（317人中21人）であり、大きな差が見られた。食生活の乱れは、免疫機能の低下にもつながるといわれている。コロナ禍の今だからこそ、継続的な食生活支援が求められている。



⑤ 経済的な理由により、現在も休学や退学を検討している人が少数ながら存在

経済的な理由により、休学や退学を検討したことがある学生は19人（2.8%）だった。そのうち5人は留学生で、水道光熱費や家賃の支払いも困難だった割合が高い。住居形態による差は見られない。また、今現在も検討中である人は5人（0.7%）、実際に休学する予定の人は3人（0.4%）、休学したことがある人は2人（0.2%）いる。コロナ禍に限らず、経済的な理由により通学を断念する学生を少しでも減らすために、経済支援が不可欠である。



(2) 家計維持に不可欠なアルバイト

① 茨大生のアルバイト事情

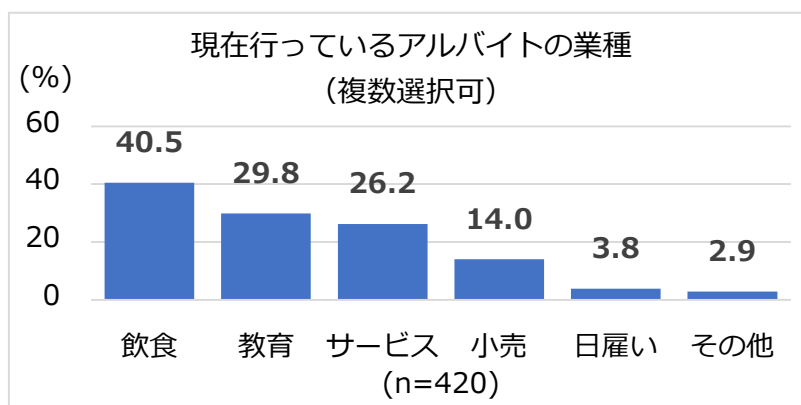
「現在アルバイトをしている」と回答した学生は 61.3% (420 人) だった。また、アルバイトをしていたが「2020 年 3 月以降に辞めた」が 8.6% (59 人)、「2020 年 2 月以前に辞めた」が 3.1% (21 人) だった。「大学入学後にアルバイトをしたことはない」と回答した学生は 27.0% (185 人) で、学年が進むにつれてその割合は低下する傾向にあった。

大学入学後のアルバイト経験（学年別）

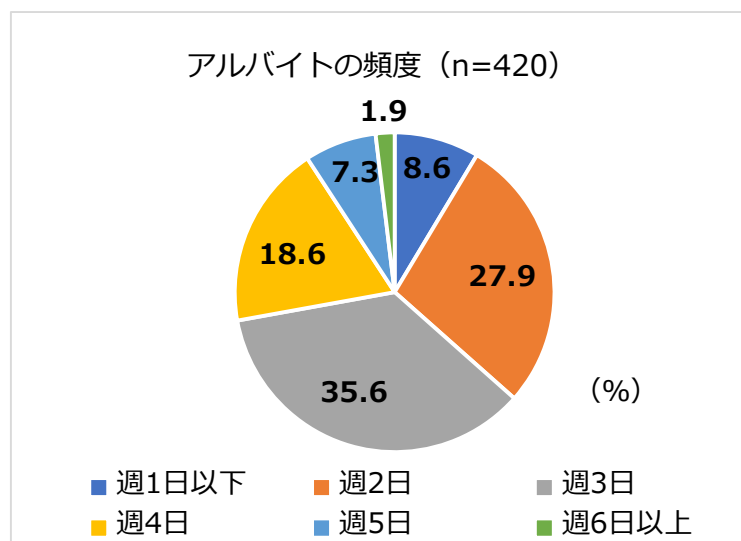
学年	現在アルバイトをしている	していたが、 2020 年 2 月以前に辞めた	していたが、 2020 年 3 月以降に辞めた	大学入学後にアルバイトをしたことはない
1 年	89 (42.2)		7 (3.3)	115 (54.5)
2 年	135 (69.6)		11 (5.6)	48 (24.7)
3 年	125 (73.1)	10 (5.8)	21 (12.3)	15 (8.8)
4 年	71 (65.1)	11 (10.1)	20 (18.3)	7 (6.5)
回答数	420 (61.3)	21 (3.1)	59 (8.6)	185 (27.0)

(注) ()内は%

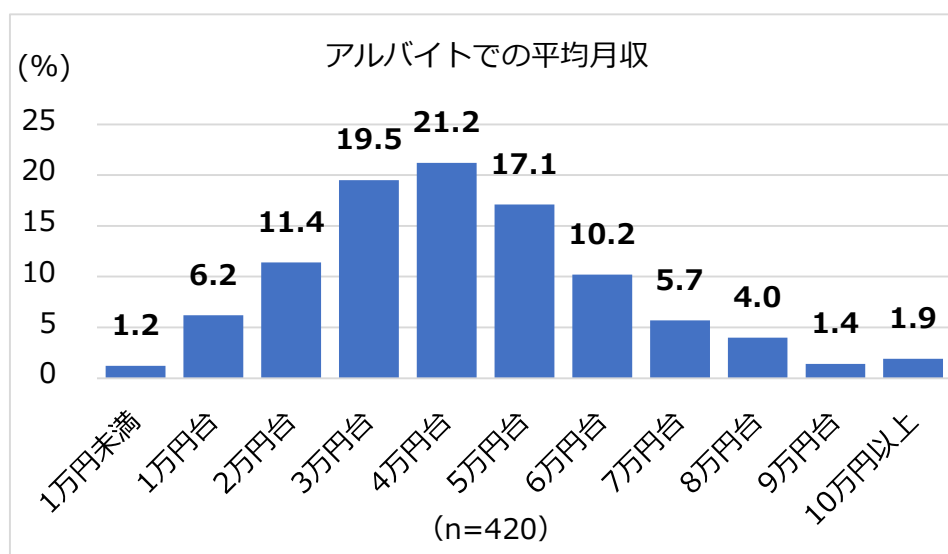
「現在アルバイトを行っている」と回答した 420 人の学生のうち、2 つ以上のアルバイトを掛け持ちしているのは 23.3% であり、およそ 4 人に 1 人だった。さらに業種（複数回答可）については、飲食業が 40.5% (170 人) で最も多く、以下教育業が 29.8% (125 人)、サービス業が 26.2% (110 人) で続いた。その他のアルバイトには、倉庫業やイベントスタッフなどがあった。



アルバイトの週あたりの頻度は、平均で 2.9 日だった。学年別では 2 年生が 3.1 日で最も多く、3 年生が 2.9 日、1 年生と 4 年生はいずれも 2.8 日だった。分布を見ると、週 3 日と回答した学生が 35.7% (150 人) で最も多かった。その後は週 2 日が 27.9% (117 人)、週 4 日が 18.5% (78 人) で続き、週 2～4 日の間でアルバイトをしている学生が 8 割以上という結果になった。一方で、週 6 日以上頻度でアルバイトをしているのは 8 人 (2.0%) と少なかったが、そのうち 7 人は一人暮らしの学生だった。



アルバイトでの月収 (長期休暇を除く) について、平均月収は 43,653 円だった。学年別にみると、1 年生は 39,960 円、2 年生は 43,519 円、3 年生は 47,616 円、4 年生は 41,563 円だった。先述したアルバイトの頻度とは異なり、3 年生が最も高いという結果になった。なお中央値は 40,000 円であり、分布を見ても 4 万円台が最多となっている。



② アルバイトをする一人暮らし学生の半数が、経済的な心配がなければアルバイトの頻度を減らしたいと回答

経済的な心配が無ければアルバイトの頻度を減らしたいかとの設問に対して、「はい」と回答したのは48.8%（205人）だった。この割合にも住居形態ごとの差がみられ、実家生では44.0%、一人暮らし学生では52.4%だった。また、2つ以上のアルバイトを掛け持ちしている学生でも60.2%と割合が高かった。さらに、アルバイトの頻度が多いほど、割合が高くなるという傾向がみられた（下表参照）。一人暮らし学生や、高頻度でアルバイトをしている学生の一部は、経済的な理由から無理をしてでもアルバイトを頻繁に行っているとみられる。このような学生達にとって、コロナ禍でシフトが減ったことは、大きな打撃だったと推測される。

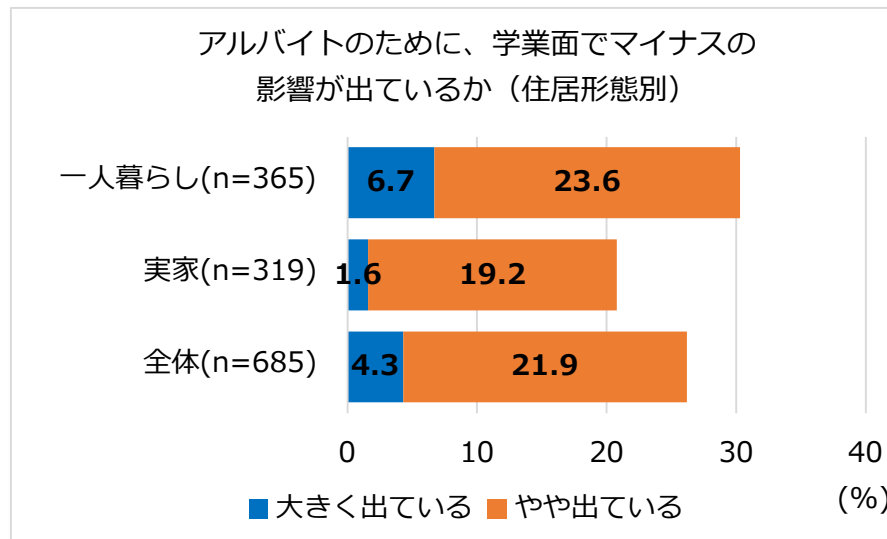
アルバイトの頻度（週あたり）	「はい」と答えた割合
6日以上	87.5 (7/8)
5日	74.2 (23/31)
4日	51.9 (40/78)
3日	53.3 (80/150)
2日	36.8 (43/117)
1日以下	33.3 (12/36)

（注1）単位は%

（注2）（）内は、「はい」と答えた人数/その頻度でアルバイトをしている学生の人数

③ 4人に1人の学生が、「アルバイトのために学業面で支障が出ている」と回答 一人暮らし学生では約3割

アルバイトのために学業面で学生生活に支障（マイナスの影響）が出ていると思うかとの設問に対して、「大きく出ている」と回答したのは4.3%（18人）、「やや出ている」と回答したのは21.9%（92人）だった。賃貸や寮で一人暮らしをする学生の約30%が、「大きく出ている」または「少し出ている」と回答した。また、経済的な心配がなければアルバイトの頻度を減らしたいと考えている学生の8.3%が「大きく出ている」、33.7%が「やや出ている」と回答し、比較的高い割合となった。無理なアルバイトは学業面にも悪影響を及ぼすといえる。



④ コロナ禍以降にアルバイト経験がある学生の半数近くが、感染拡大によって悪影響を受けている

ここまで見てきたように、多くの学生にとってアルバイトは生活に欠かせないものであるが、コロナにより大きな影響を受け続けているのもまた事実である。「現在アルバイトをしている」または「アルバイトはしていたが、2020年3月（コロナ感染拡大）以降に辞めた」と回答した学生計479人に対して、コロナの感染拡大によるアルバイトへの影響を複数選択可で尋ねた。その結果、シフトが減ったと回答した学生は169人（35.3%）だった。また、アルバイトを始めたくても始められなかった学生が42人（8.8%）存在し、この割合を住居形態別にみると、実家生では5.4%だったのに対して一人暮らしでは11.7%だった。職場の都合で辞めざるを得なかった学生は14人（2.9%）存在し、うち8人は一人暮らしをしている学生だったことから、生活に大きな支障が出たと推測される。

さらに、学年によっても影響に違いがみられた。3・4年生では「シフトが減った」と回答した学生が半数近くに上った。職場の都合で辞めた学生も4%台だった。1・2年生では「アルバイトを始めたくても始められなかった」との回答が10%を超え、比較的多い傾向にある。このように、学年によってアルバイトへの影響には差があることから、支援の際には学生のニーズを正しくつかむ必要がある。

新型コロナウイルスの感染拡大によるアルバイトへの影響

(学年別・複数選択可)

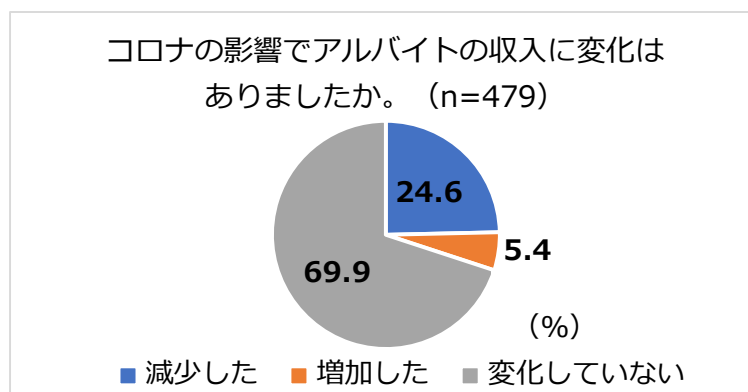
	1 年	2 年	3 年	4 年	全体
シフトが 減った	14 (14.6)	43 (29.5)	69 (47.3)	43 (47.3)	169 (35.3)
自分の意志で 辞めた	4 (4.2)	18 (12.3)	18 (12.3)	12 (13.2)	52 (10.9)
始めたくても 始められ なかった	11 (11.5)	21 (14.4)	6 (4.1)	4 (4.4)	42 (8.8)
シフトが 増えた	2 (2.1)	6 (4.1)	8 (5.5)	5 (5.5)	21 (4.4)
職場の都合で 辞めた	1 (1.0)	2 (1.4)	7 (4.8)	4 (4.4)	14 (2.9)
特に影響は なかった	62 (64.6)	67 (45.9)	54 (37.0)	32 (35.2)	215 (44.9)

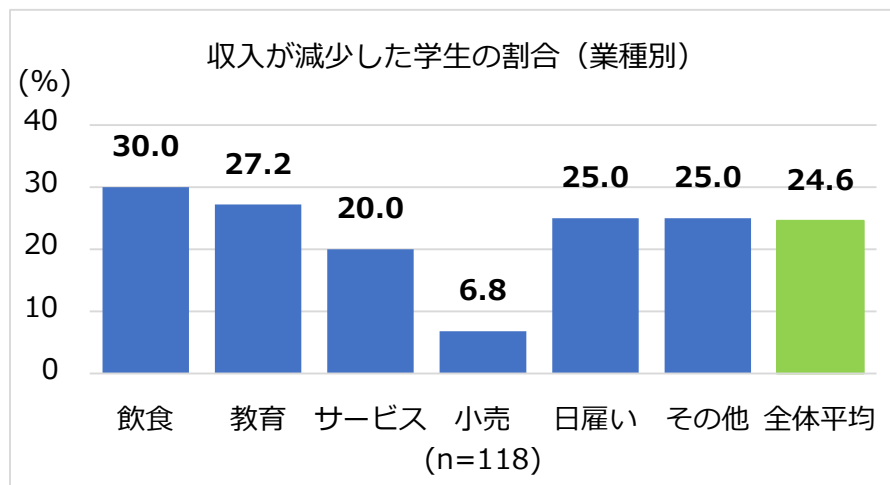
(注) ()内は%

⑤ コロナの影響でアルバイト収入の減少を経験した学生は 24.6% 飲食業・教育業で割合高く

最初の緊急事態宣言が発出された 2020 年 3 月以降で、アルバイトの収入が減少した学生は 24.6% (118 人) だった。住居形態間では、一人暮らしで 27.0%、実家暮らしで 21.7%と、5.3 ポイントの差があった。学年別では、3 年生 (33.6%) と 4 年生 (38.5%) で高い傾向にあった。

また、収入が減少した割合を業種別にみると、多くの学生がアルバイトを行っている、飲食業・教育業で高くなっている。一方で、小売業 (スーパーマーケットなど) では極端に低くなっており、業種間でも大きな差があることが分かった。

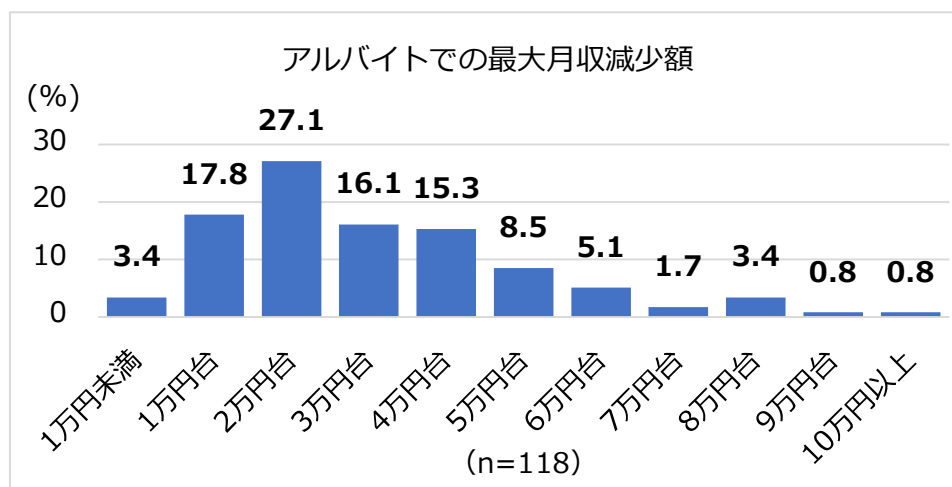


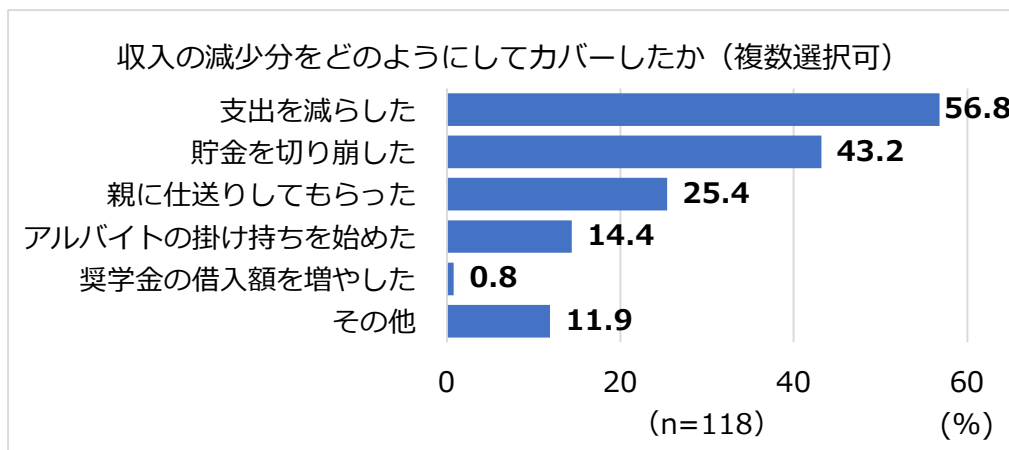


⑥ 月収減少額（最大）の平均は 31,422 円で、昨年度より 1,186 円増加

収入が減少した学生に対して最大の月収減少額を尋ねたところ、平均額は 31,422 円だった。昨年度調査の 30,236 円から 1,186 円増加した。学年別ごとにみると、3 年生が 36,836 円、4 年生が 30,142 円と特に高くなっており、1 年生は 29,400 円、2 年生は 23,777 円だった。3・4 年生は収入が減少した学生の割合も高かったことから、より多くの学生に大きな影響が出たと推察できる。また中央値は 30,000 円で、こちらも昨年度調査の 25,000 円から増加した。分布はグラフの通りで、1 万円台から 4 万円台の回答が多くなっている。

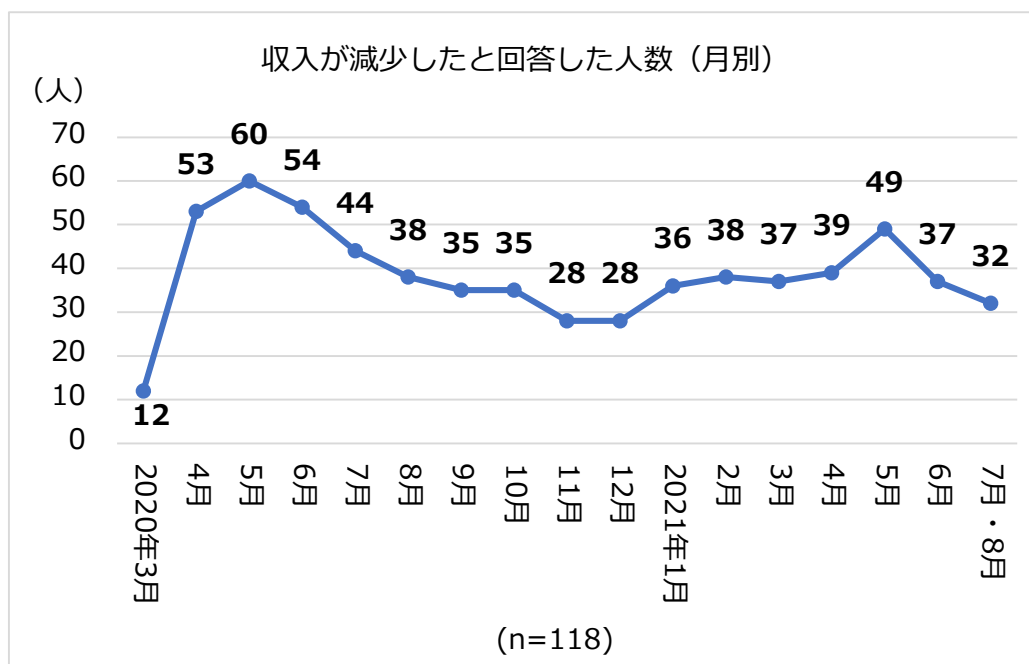
次に、収入の減少分をどのようにしてカバーしたかとの設問に対しては、7 割以上の学生が「支出を減らした」または「貯金を切り崩した」と回答した。「親に仕送りしてもらった」との回答したのは 4 人に 1 人ほどで、多くの学生が生活を切り詰めたことが明らかになった。また、支出を減らすか貯金を切り崩すかをした学生は 91 人だったが、その 6 割にあたる 55 人は一人暮らし学生だった。





⑦ アルバイトでの収入減が長期化 未だ減収続く学生も

新型コロナウイルスの感染拡大によるアルバイトへの影響は2020年3月の時点で始めており、自粛期間が本格的に始まった4月になって、収入が減少した学生が大きく増加した。その後は5月を頂点にして徐々に減少するも、今年に入ってから再び増加し、5月には昨年春に迫る水準になった。今年5月時点で茨城県に国の緊急事態宣言等はないが、県独自の感染拡大防止措置が取られていたことや、大学内で大規模なクラスターが発生し、アルバイトの自粛要請が出たことなどが要因として考えられる。また、昨年度から継続して収入減が続いている学生も一定数存在する。新型コロナウイルスの新規感染者数の増減と、アルバイト収入の増減は必ずしもリンクするものではない。また、ワクチン接種が進んでも、すぐには需要が戻らない業種があるとも考えられることから、継続的な経済支援が求められる。

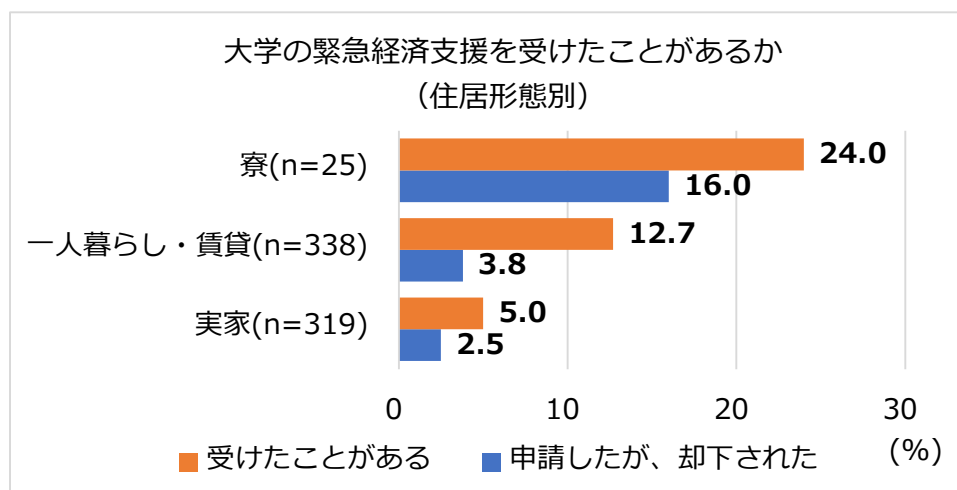
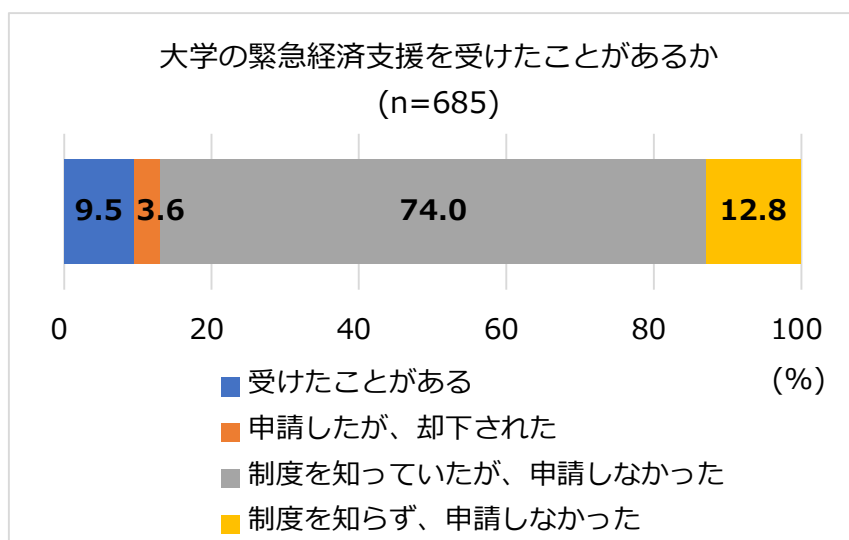


(3) 経済支援

① 大学入学以降で、新型コロナウイルス感染拡大に係る緊急経済支援を受けたことがある学生は 10 人に 1 人 一人暮らし学生の割合高く

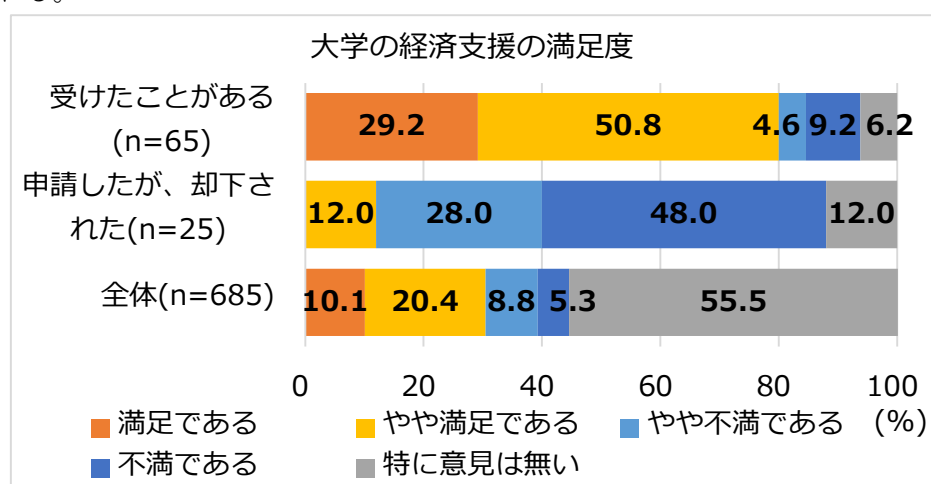
大学入学以降で、新型コロナウイルス感染拡大に係る緊急経済支援を受けたことがある学生は、全体の 9.5% (65 人) であった。前年度調査の 5.7% よりも 3.8 ポイント程度上昇している。この 1 年間で複数回の経済支援が行われたことが要因であると考えられる。却下された学生は 3.6%(25 人)であり、前年度調査の 4.5% よりも 0.9 ポイント程度減少した。

申請した人の割合を住居形態別にみると、実家生よりも寮や賃貸で一人暮らしをする学生の割合が高くなっている。また、緊急経済支援を受けたことがある寮生 6 人のうち、4 人は留学生であった。



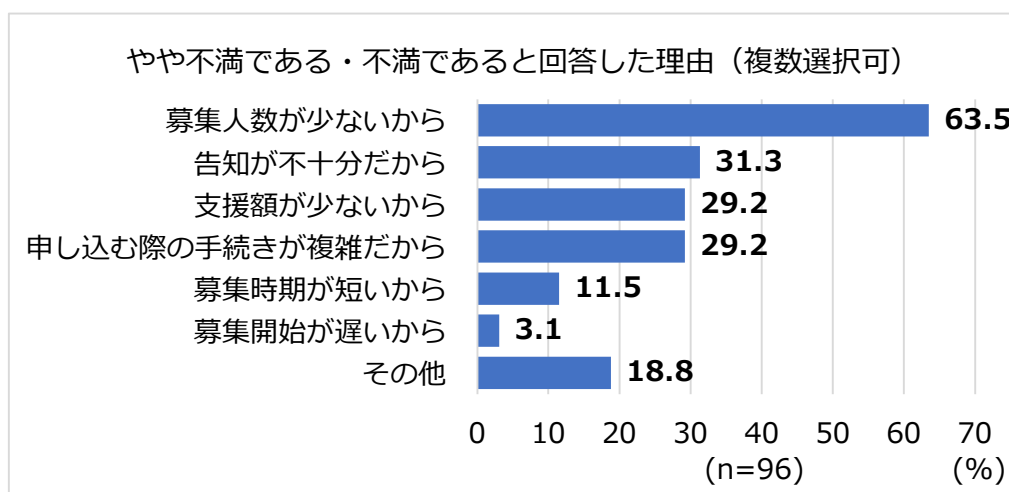
② 緊急経済支援を受けたことがある学生の満足度は高い一方、申請を却下された学生は不満を抱いている

緊急経済支援を受けたことがある学生の80%は、「満足である・やや満足である」と回答した一方、申請を却下された学生の76%は、「やや不満である・不満である」と回答した。申請が通ったか否かによって、満足度は大きく異なっている。また、申請を断られた学生の中には、医療機関の受診をためらった人や、水道光熱費を滞納した人もいた。このことから、支援策の網の目から漏れてしまい、非常に厳しい状況におかれている学生たちが存在すると思われる。



③ 経済支援に不満を感じる学生の63.5%が、その理由として「募集人数が少ないから」と回答

「やや不満である・不満である」と回答した学生は、理由として、未だに「募集人数が少ないから」との意見が最も多く、61人(63.5%)であった。次いで「告知が不十分だから」との意見が多く、30人(31.3%)となっている。また、「支援額が少ないから」「申し込む際の手続きが複雑だから」との意見も少なくない。コロナ禍に限らず、経済支援の在り方には改善の余地がある。



④ 経済支援に対する要望・意見（一部抜粋）

97 件の回答があった。一部を抜粋して紹介する。

高評価

- ・頻繁に経済支援の案内をしているのでとてもいいと思う。
- ・自分は受けていませんが食料支援は非常によい支援だと思いました。
- ・ない。授業料半額免除を受けており、満足である。

募集人数

- ・募集人数の枠が狭く、また、募集の条件が厳しいと思う。
- ・アルバイトの自粛を要請するのであれば、それに応じた学生全員にその分の給付をすべきだと感じました。
- ・学生はコロナウイルスの影響によって少なからず経済的に影響を受けているので、より多くの人が支援を受けられるような仕組み作りをして欲しい。

給付の条件

- ・評価基準が不透明。自分は受けたことがあるが、受けられなかった人がどうして受けられなかったか気になっていた。
- ・5月のバイト自粛の時に最高月収と比較して半減したが、夏休みに荒稼ぎした人からすればそんな条件では貰うことは不可能だったので、条件を変更してほしい。
- ・親の収入減という基準は、生活費を学生自身が負担している場合当てにならないと思う。親の収入の減少という基準を撤廃して学生自身の生活の困窮を基準にしてほしい。

一律給付

- ・他大学のように、学生に定額を一律で支給したらよいと考える。
- ・全員に配るべき学費は変わってないのに施設の利用を制限されている。不満でしかない。
- ・コロナ支援は水平的な平等で支援して欲しかった。どの支援も垂直的で申請できるものがなかった。富裕層なら文句はないが、中間層はいつもこうで不満でしかない。

告知

- ・もう少し詳しい情報を早い段階で教えて欲しいです。説明会の時間を取るのが難しく、それ以前に自分が支援を受けられるのかははっきりわかるようにしてほしいのです。
- ・もっと頻繁に告知して欲しい。
- ・全て申請を学生に任せるのではなく、支援に値する経済状況の人には「あなたは申請できますよ、支援を受けられる状況ですよ」と通知したらどうかと思う。

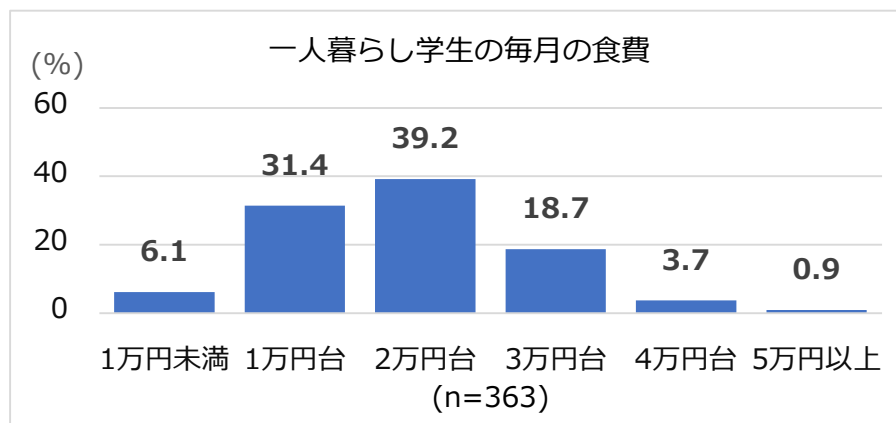
その他

- ・日本国外から申請する場合では、書類を期限内に提出することが困難です。
- ・学内ワークスタディの枠をもっと増やしてもらえれば嬉しい。
- ・中間層の支援も少しは行うべきではないかと思う。
- ・申請をわかりやすくしてほしい

(4) 食の事情と食料支援

① 一人暮らしをしている茨大生の食費は、月平均 20,793 円

毎月の食費を尋ねたところ、347 件の回答が得られた。平均額は 20,811 円だった。賃貸や寮で一人暮らしをしている学生に限定すると、20,793 円だった。また中央値は 2 万円で、分布を見ても 2 万円台の回答が最多だった。



② 食料支援を受けたことがある学生は 4 人に 1 人 一人暮らし学生では 2 人に 1 人

昨年度から各地で行われている学生向けの食料支援を利用したことがある学生は、26.1% (179 人) だった。住居形態別にみると、実家暮らしでは 3.8% だったのに対し、一人暮らしでは 46.0% で、一人暮らし学生の利用者が圧倒的に多いことが分かった。

また、食生活で問題を抱えたことがある学生 140 人 (20.4%) のうち、54.3% (76 人) が何らかの食料支援を受けたことがあると回答した。しかしこの割合は、一人暮らしでは 62.7% (118 人中 74 人) だったのに対して、実家暮らしの場合ではわずか 9.5% (21 人中 2 人) にとどまった。食生活に問題を抱える一人暮らし学生はカバーできている一方で、実家生への支援は不十分であり、今後に向けた課題となる。

③ 食料支援の利用拡大へ向けた課題

食生活に困った経験があるにも関わらず食料支援を利用しなかった学生 64 人に、利用しなかった理由を尋ねた。その結果、「支援があることを知らなかった」「気持ちのうえで利用に抵抗感があった」との回答が多かった。また、アルバイトなどの他の予定があったため、支援を受けることが出来なかったと回答した学生は 32.9% だった。「大学が遠いなどの理由で、受け取りが困難だった」と回答した学生 10 人のうち、9 人は実家生だった。

今後、食生活に困っている学生の利用率を高めていくためには、SNS や構内の掲示板などを活用した多角的な告知を行っていくべきである。また、大学からの距離や心理的な抵抗感、予定が合わないなどといった課題については、宅配を活用したり、日程を複数日に分けて実施したりするなどの対応が考えられる。

食生活に困った経験がある学生が、食料支援を利用しなかった理由 (複数選択可)

支援があることを知らなかった	22 (34.4)
気持ちのうえで利用に抵抗感があった	14 (21.9)
アルバイト以外の予定があった	11 (17.2)
アルバイトがあった	10 (15.6)
大学が遠いなどの理由で、 受け取りが困難だった	10 (15.6)
食料の購入に困っていなかった	9 (14.1)
その他	4 (6.3)

(注) ()内は%

④ 食料支援への要望 「告知をもっと早くしてほしい」「複数日に分けて開催してほしい」などの、周知や開催方法に関する要望があった

〈食料支援への要望（一部抜粋）〉

- ・事前の告知をもう少し早くしてほしい。
- ・バイトのシフトが原因で食料を受け取りにいけないことがあり、困っています。
- ・食料の他に洗剤などの日用品も支援して欲しい。
- ・1日だけだと参加したくても参加出来ない場合があったので、日にちを2日間に分けて欲しい。
- ・卵が欲しい。野菜がそのまま渡されても処理が難しいので、カレー以外にも料理への導線がある配布(例えば調味料など)があると嬉しい。
- ・食料支援をする場合は配達も有りにしてほしい。

⑤ 食料支援に対して、学生からは感謝の声が多く寄せられた

「食料支援を利用したことがある」と回答した学生に対して、食料支援の感想や要望を聞いた。運営やボランティアに対する感謝の声が多く寄せられた。

〈食料支援の感想（一部抜粋）〉

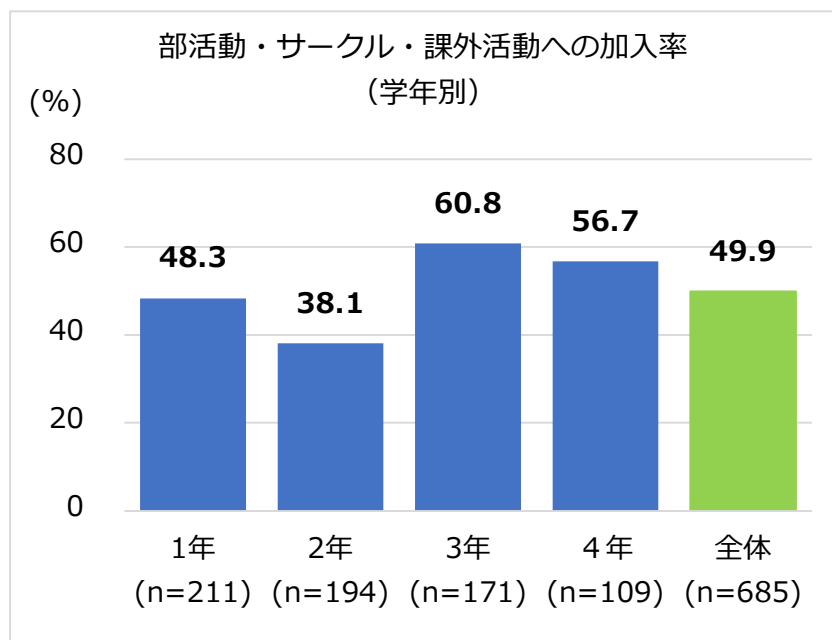
- ・お米をいただけたことがすごく助かった。利用しようと思い学校まで行ったが、多くの学生がすでに並んでいて、時間もなかったのであきらめたこともあった。
- ・金額のことを考えるとカロリーがとれない野菜は自分で買わないので食料支援でいただけたのはありがたかった。
- ・加工品は便利でももちろん非常にありがたいが、野菜なども自分で料理をするきっかけにもなるためとてもありがたかった。
- ・もちろん食料の支援は助かったが、生理用品等の日用必需品の配布も非常に助かった。
- ・野菜などの食料をもらえたこともそうだが、直接渡してくれ、声をかけてもらえたことがとてもうれしかった。
- ・ボランティアとして参加した際、ボランティアにも食糧支援物資を頂きました。多くの学生に届いてよかったと感じています。
- ・保存食のカレーやカップラーメンが一番うれしかった。

2. 部活動・サークル・課外活動

① 人間関係に不安抱える 2 年生 学生間交流いまだ不十分

今回の調査で特に目立ったのが、2 年生の学生間交流の少なさに対する不満や悩みである。最初の緊急事態宣言が発令されていた昨年 4 月に入学した 2 年生の多くは、入学当初からオンライン授業が続いており、入学式や新歓祭も中止されたために、学生間交流や友達作りの機会を十分に持てていないと感じているようだ。自由記述設問にも、「サークルや部活動に所属できておらず、人との繋がりが無い。」「2 年生に対しての配慮や支援が欲しい。人と関わる場、友達を作る場を改めてちゃんとつくってほしい。」など、人間関係や交流に関する意見が多く寄せられた。

実際に、部活動やサークル・課外活動への加入率は全学年の中で唯一 40%を下回っており、同じくコロナ禍で入学してきた今年度の 1 年生と比べて、対面授業の頻度も少なくなっている（後述）。また、「新たな人間関係の形成ができておらず、学業や就職活動について話す人がいない」「人との繋がりが無いので、受講する講義を選ぶ際に悩んだり、就活などが不安」などといった、履修や就職活動に対する不安を持つ学生も多くみられ、学生間交流の不足があらゆる悩みに派生している。オンライン形式での新歓祭の開催や一定程度の対面授業の実施など、1 年生へのサポートは一定の効果があると評価できる。しかしその一方で、2 年生をターゲットにした新たなコミュニティの構築や交流の場の提供、感染状況を鑑みたうえでの授業形態の見直しなども求められている。

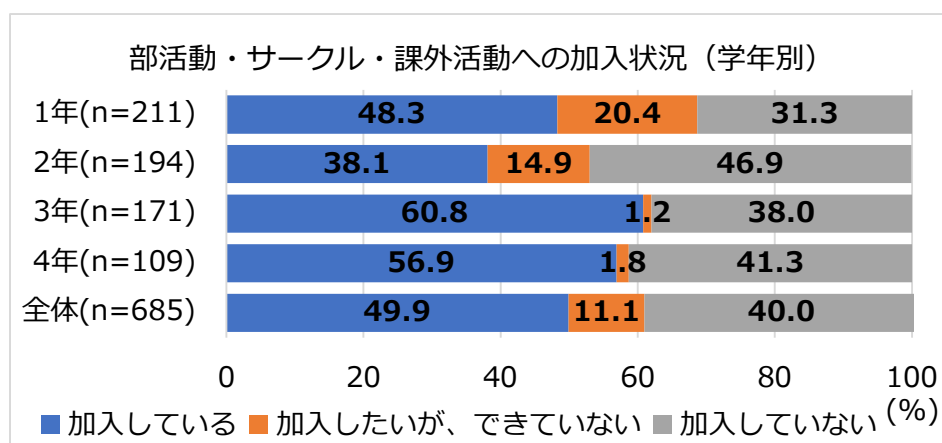


② 1年生の5人に1人、2年生の7人に1人が、サークルに加入したくてもできていない

部活動・課外活動・サークルへの加入率は大学への入学がコロナ禍の前か後かで差がみられた。特に2年生は全学年で唯一、加入していない割合が加入している割合を上回っている。また1・2年生では、「加入したいが、できていない」との回答も多くなっている。

また、住居形態別の加入率は、実家暮らしで44.8%、一人暮らしでは54.3%で、9.3ポイントの差があった。また、「加入したいが、できていない」と回答したのは実家暮らしでは8.0%、一人暮らしでは14.4%で、こちらも6.4ポイントの差があった。

実家で生活する学生は通学などに時間がかかり、サークルなどに参加しにくい面がある。課外活動でもオンラインの活用が進みつつある中で、多様な参加・活動形態のある団体が、今後のメンバー獲得において有利になっていくと考えられる。



③ サークル活動等に加入していない・できていない理由 情報の不足とタイミング

部活動・サークル・課外活動に「加入していない」「加入したいが、できていない」と回答した学生343名に対してその理由を聞いたところ、最も多かった理由は「サークルに関する情報が不足していて、どのサークルに加入すればいいかわからないから」だった。特に2年生では半数以上の学生が選択した。1年生でも依然高い割合にあるが、2年生に比べて16.7ポイント低下しており、オンライン新歓祭の開催などが効果を示したといえる。また、「興味があるサークルはあったが、加入するタイミングを逃した」という回答も、1・2年生を中心に多かった。これらは、昨年度の新歓祭の中止や断続的な活動制限などにより、サークル活動の全体像が見えにくくなっていることによる、コロナ禍特有の理由だと考えられる。3・4年生では、「元々入る予定がなかった」「学業が忙しい」などの理由が多く、入学したのがコロナ禍以降かどうかによって差がみられる。

先述したように、団体への加入者が全体的に減少している中でも、潜在的な加入希望者は一定数存在する。学年が進むにつれ加入することが困難になっていく中で、今後も活動見学の機会を設けたり、団体名簿の提出期間を伸ばしたりするなどの対応が求められる。

加入していない・できていない理由（複数選択可）

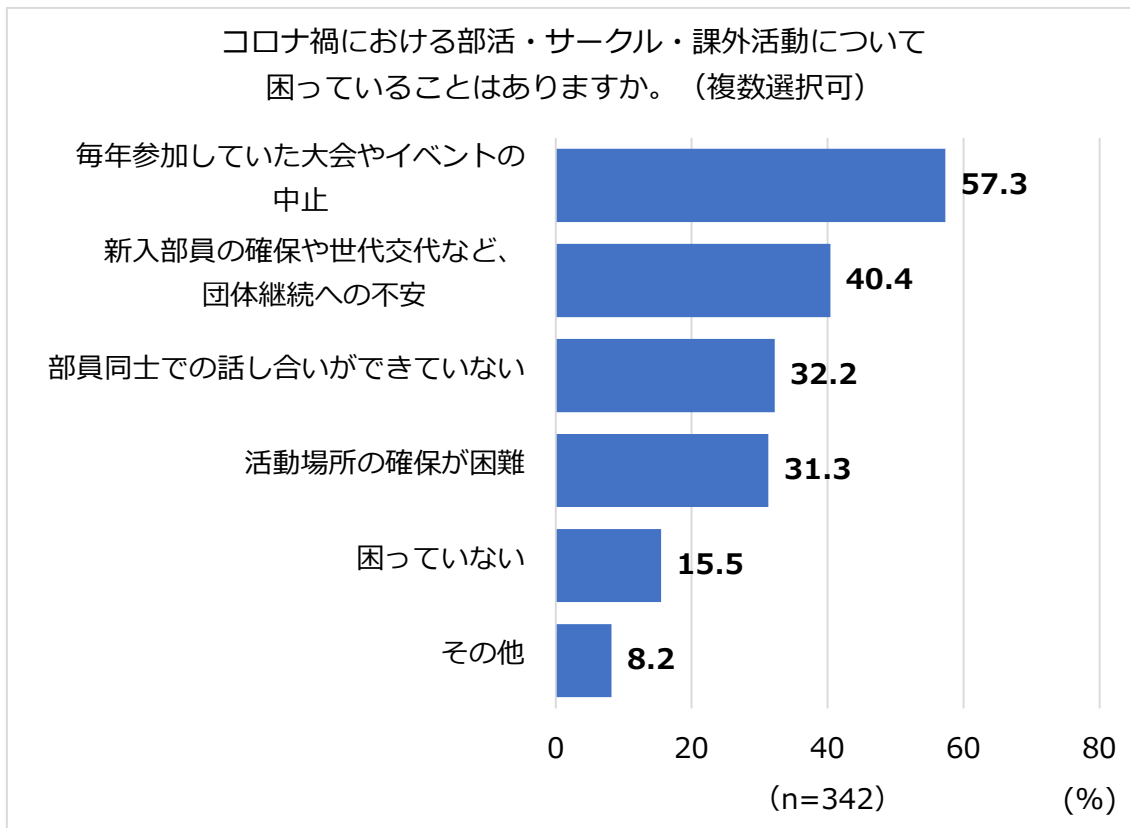
	1 年	2 年	3 年	4 年	計
サークルに関する 情報の不足	39 (35.8)	63 (52.5)	8 (11.9)	2 (4.3)	112 (32.7)
元々入る予定が なかった	22 (20.2)	31 (25.8)	24 (35.8)	26 (55.3)	103 (30.0)
興味ある団体に 加入する機会を 逃した	33 (30.3)	51 (42.5)	12 (17.9)	2 (4.3)	98 (28.6)
学業が忙しい	25 (22.9)	22 (18.3)	17 (25.4)	12 (25.5)	76 (22.2)
お金がかかる	13 (11.9)	17 (14.2)	17 (25.4)	6 (12.8)	53 (15.5)
アルバイトが 忙しい	12 (11.0)	20 (16.7)	12 (17.9)	6 (12.8)	50 (14.6)
コロナウイルスの 感染が心配	14 (12.8)	26 (21.7)	7 (10.4)	2 (4.3)	49 (14.3)
その他	23 (21.1)	7 (5.8)	17 (25.4)	8 (17.0)	55 (16.0)

(注) ()内は%

④ コロナ禍におけるサークル活動で困っていること 第1位は大会やイベントの中止 — 存続危機に陥る団体も

団体に加入できていない学生だけでなく、加入している学生（342人）にも様々な悩みがある。コロナ禍における部活・サークル・課外活動について困っていることとして、57.3%の学生が「毎年参加していた大会やイベントが中止されている」と回答した。団体継続への不安や部員間のコミュニケーションの不足を挙げる学生も多かった。その他には、「加入はしたのに活動ができていない」「イベントに参加できていないので、年間のスケジュールを把握できていない」などの悩みもあった。

コロナ禍で活動が制限され、新入生の加入率も低下している中で、存続の危機に陥る団体もある。また、下級生が経験を十分に積めないままに引き継ぎを迎えるサークルもあり、本報告書の編集時点で新型コロナウイルスの新規感染者数は全国的に減少傾向にあり、ワクチン接種も進んでいる。しかし、海外では新たな変異株が拡大するなど今後の見通しは未だ不透明であり、多くの団体に試練が訪れている。



⑤ 大学の課外活動の方針に対する意見・要望

活動制限を緩めてほしいという意見が多かった一方で、大学側の方針に理解を示し、好意的に評価している学生も少なくなかった。また、サークル紹介の機会やイベントを大学の主催で行ってほしいという要望も複数あった。活動制限が課されていた中でドラマの撮影が行われたことへの違和感や不満を訴える意見もあった。一部を抜粋して紹介する。

活動制限が厳しい・緩和してほしい

- ・ 大学は感染拡大防止のため徹底した対策を取っているが、少し過敏になりすぎていると思う。
- ・ 課外活動を許可してほしい。一人暮らし学生で家にいるだけでは塞ぎ込んでしまう。
- ・ 課外活動に対して消極的になるのではなく、感染対策を徹底した上で、積極的な活動を進めていくべきだと感じる。
- ・ 他の地域と比較して規則が厳しすぎる。厳しすぎる規則は大学で活動の大きい部分を占める課外活動を縮小し、今後多くのサークルが無くなってしまうことを危惧している。

制限に賛成・厳しくすべき

- ・対応の誠実さは伝わってきているので、大学の決定は信頼します。
- ・またクラスター出て全面オンラインになると嫌なので、徹底的に管理してほしい。
- ・取り締まるときはもっとしっかりと取り締まった方がいいと思う。半端な規定だと学校の外で問題が起きたときに処理が大変になると思うから。
- ・前提として、課外活動を実施することは感染リスクを高める行為であるということに焦点を置くべき、周知すべきであると思います。感染リスクを取ってまで課外活動を行うならば、大学及び各サークルは課外活動によるメリットが感染リスクというデメリットを上回ることを言語化すべき。

ドラマ撮影について

- ・大学の課外活動禁止の要請に従い課外活動を自粛しているにもかかわらず、大学が多く
の学外の人間をキャンパス内に入れてドラマ撮影を許可したことは、我々の気持ちに対
する配慮が非常に欠けていると感じ、悲しい気持ちになった。
- ・学生の行動は規制しドラマは許可される、といった対応には疑問を感じます。
- ・ドラマの撮影で何十人何百人規模の人を大学に入れたのに、数人規模の活動に制限が
かかっているのが納得いかない。

金銭的な補助をしてほしい

- ・学外イベントに参加する際などの PCR 検査への補助金を検討してほしい。
- ・大学の施設使用禁止の期間中は、部活動等に補助金を交付する等の処置を講じて欲しか
った。グラウンド等を借りるのにも費用がかさむ為、それで部活に参加しないという部
員も現れた。

その他

- ・サークルの情報に素早くアクセスできるサイトやページがあると嬉しい。
- ・前回学内で感染者が出た際、後手後手の対応となっているように感じた。今後感染が
拡大した場合や、学内で感染者が出た場合なども想定し、どのような対応をするのか事
前に定め、周知して欲しい。
- ・大学側の対応が運動系の部活動・サークルを中心に行われているように感じる。書類の
内容など運動系は運動系に必要な対応を、文化系は文化系に必要な対応をするようにし
てほしいと思っています。
- ・学生のために頑張っている職員と学生の間で温度差があるように感じる。話し合っ
て温度差を解消し、協力しあえる関係になってほしい。
- ・2年生でも参加しやすいような、加入体験や勧誘の時期が定期的にあったらうれしい。

3. 授業

① 対面授業の頻度には学年差 1年生が突出して多い

1年生では9割以上の学生が週2日以上対面授業を受けており、週1日以下の学生はわずか5.7%である。一方2年生では、週2日以上の割合は35%にとどまっており、週1日以下が65%で多数派になっている。また、週0日（隔週など）と回答した学生も2割以上いた。今回の調査では、このような差に対する不満の声もあった

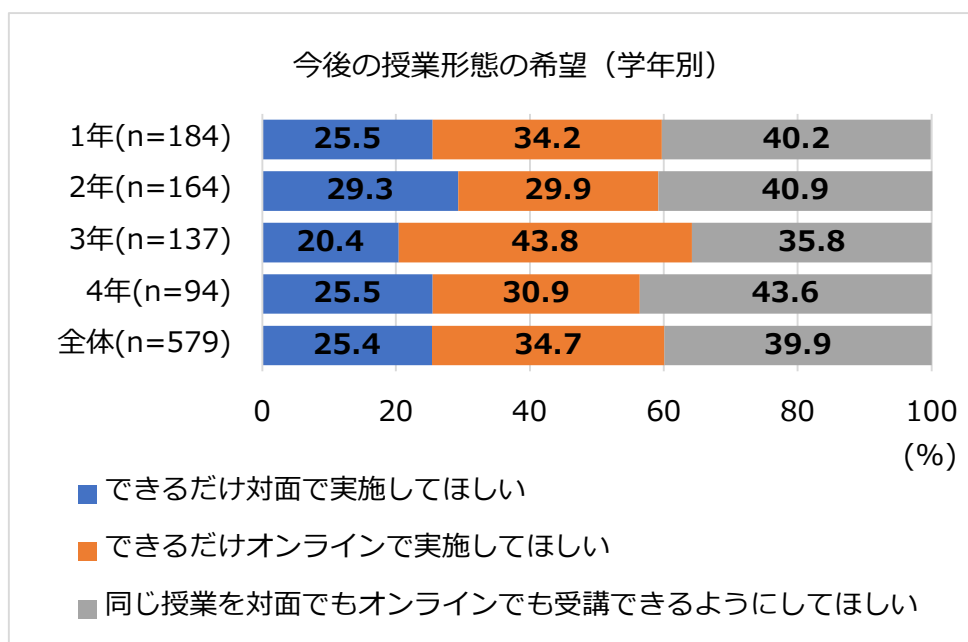
対面授業の頻度（学年別）

学年	週0日	週1日	週2～3日	週4～5日	週6～7日
1年	3 (1.4)	9 (4.3)	95 (45.0)	103 (48.8)	1 (0.5)
2年	43 (22.2)	83 (42.8)	61 (31.4)	6 (3.1)	1 (0.5)
3年	22 (12.9)	80 (46.8)	64 (37.4)	5 (3.0)	0 (0.0)
4年	40 (36.7)	54 (49.5)	13 (12.0)	1 (0.9)	1 (0.9)
回答数	108 (15.8)	226 (33.0)	233 (34.0)	115 (16.8)	3 (0.4)

(注) ()内は%

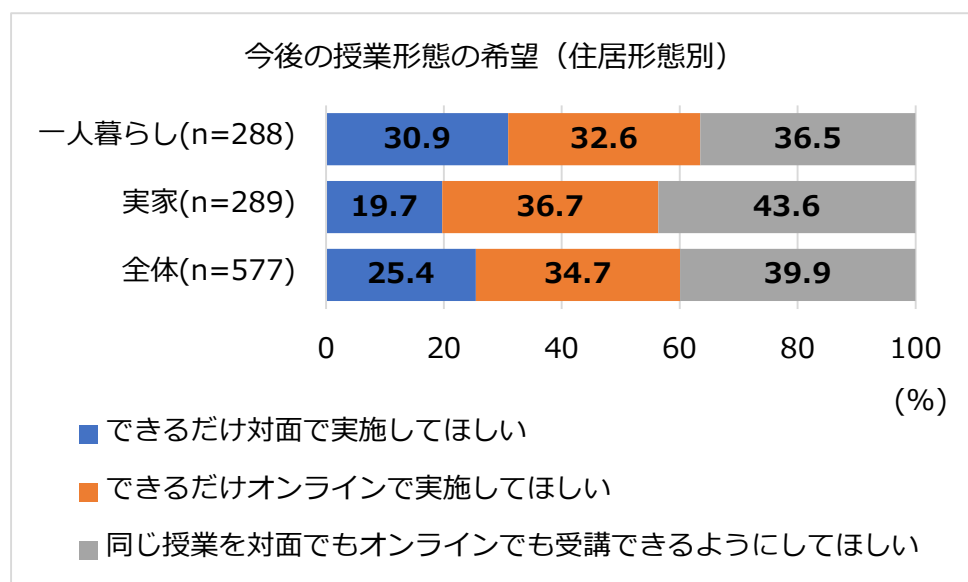
② 2年生は対面を希望する学生の割合が高く、3年生はオンラインを希望する学生の割合が高い

2020年4月から現在に至るまで、オンライン授業が主体となっているが、授業形態に関する学生の希望は様々である。人文社会科学部の学生579人のうち、「同じ授業を対面でもオンラインでも受講できるようにしてほしい」と回答した学生が231人(39.9%)で最も多かった。理由としては、対面とオンライン双方のメリットを挙げたうえで、選択できるようにしてほしいとの意見が多かったが、現時点でそれを実行できる授業は少ない。次いで「できるだけオンラインで実施してほしい」と回答した学生が201人(34.7%)であり、コロナ感染が不安、移動時間・移動費用が抑えられるといった意見が多かった。また、「できるだけ対面で実施してほしい」と回答した学生は147人(25.4%)であり、交流の場が欲しい、オンラインでは集中力が続かないといった意見が多かった。学年別で比較すると、2年生は他学年よりも対面を希望する学生の割合が高く、3年生はオンラインを希望する学生の割合が高いことが特徴的である。



③ 実家暮らしの学生は対面を希望する学生の割合が低い

住居形態別で比較すると、実家暮らしの学生は対面を希望する割合が 19.7%であり、一人暮らしの学生と比較して 10 ポイント以上低い値となっている。その理由として、移動に関するデメリットを指摘する学生が多い。これらの結果からも、学生全員が希望する授業形態の実現は難しいと考えられる。今後は、授業ごとの特性を考慮したうえで、学生が不利益を被ることの無い授業形態を模索する必要がある。



④ 各授業形態を希望した理由（一部抜粋）

685 件の回答の中から、一部を抜粋して紹介する。

同じ授業を対面でもオンラインでも

- ・実家暮らしで水戸に行くまで2～3時間かかるので、オンライン授業が中心となってくれと助かるから。ただ、やはり授業によっては対面のほうが効率よく勉強できる可能性もあるので、臨機応変に対応できるような環境があればいいなと感じたから。
- ・授業の質が確保されることが前提ではあるが、対面でもオンラインでも同等のレベルで学習できるのであれば多様な形で授業に参加できるほうが学生にメリットがあると感じる。
- ・通学費が節約できるのはうれしいという気持ちがありつつも、人と交流したいという思いもあるから。

できるだけオンライン

- ・通学で、電車やバスを使う際、混雑してしまい、感染してしまう可能性があるため。また、バイトが接客業で、もし感染してしまった際に、他の学生に広めてしまう可能性があるため。
- ・オンラインの方が移動時間や外出するための時間を別の事柄に有効活用することができ、緊急性の高い事情でどうしても実家に戻らなくてはなくなったときなどに大学に行かずとも授業を受けることができるため。
- ・すでに実家に帰っており、毎日対面での授業になると交通費などが大変になってしまうから。

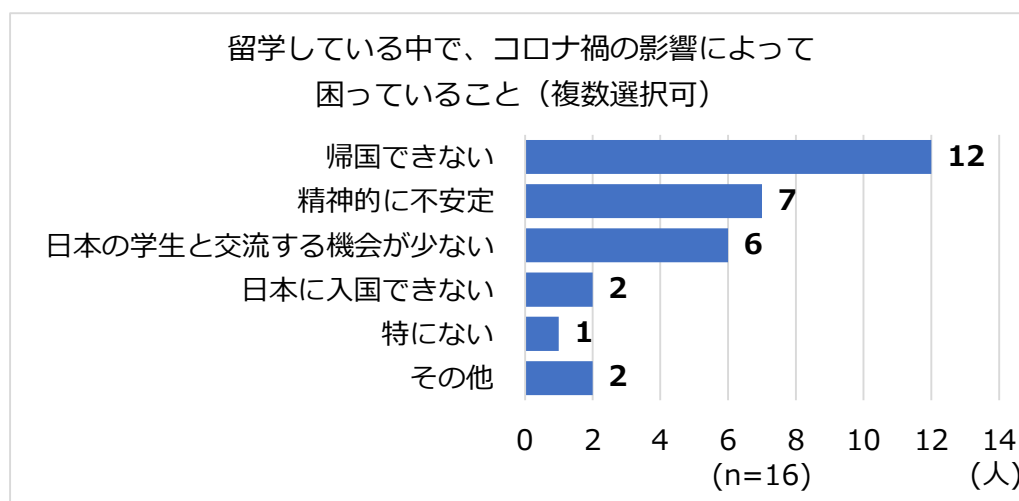
できるだけ対面

- ・6月から対面の授業が始まって、周りの席の人たちと話しながら授業を受けることが出来るようになり、友達も増えた。オンラインでのチャットルームなどもあったが、直接話したほうが意見も交換しやすいし、いいなと思った。
- ・オンラインよりも対面のほうが集中できるから。また、オンライン授業は先生の話が早いため、ノートを取る時間が圧倒的に減り、話についていけなくなる時があるから。
- ・対面の方が授業を受けているという雰囲気を強く感じられ、またグループワークを行う際に相手の顔が見えるため、意見を発言しやすいから。

4. 留学生

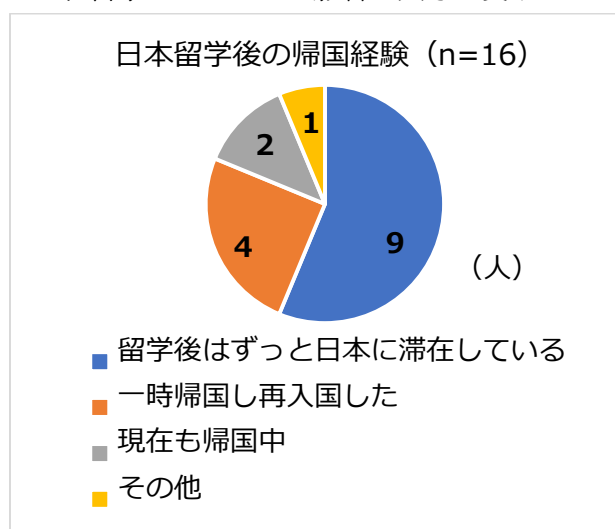
① 帰国できずに困っている留学生が 75%

今回の調査では、16 人の留学生から回答を得ることが出来た。国籍は中国（13 人）・韓国・マレーシア・ベトナム（それぞれ 1 人）だった。日本に留学している中で、コロナ禍の影響で困っていることはあるかを複数選択可で尋ねたところ、75%にあたる 12 人が「帰国できない」と回答した。また、2 人の留学生が帰国後日本に再入国できずにいることが分かった。半数近くの留学生が精神的に不安定と回答し、日本人学生との交流不足を感じている学生も少なくない。留学生が孤立しない環境づくりが求められる。



② 留学後はずっと日本に滞在している留学生が多い

日本に留学してからの帰国経験について、9 人の留学生が「留学後はずっと日本に滞在している」と回答し、そのうち 8 人が「帰国できない」ことを悩みとして挙げていた。また、レジデンストラックの運用が停止されておりビザが申請できず、全く日本に入国できていないとの回答もあり、留学生もコロナの影響を大きく受けていた。



5. 自由記述

① 心配なこと・困っていること

281 件の回答があった。一部を抜粋して紹介する。

人間関係・交流

- ・友達がいらない、できない。
- ・友人と話す機会が極端に減ってしまった。オンラインでただ授業を受けるだけで楽しいことが何もない。
- ・同学年の人とは同じクラスになるなどして交流する機会が去年よりも増えたが、別の学年の人との交流が少ない。
- ・大学にほとんど行けておらず人との交流もかなり薄いので、周りから刺激を受ける機会がほぼ無い。
- ・友達ができず、精神的にきついときが多くなっている。友達がほとんどいないため周囲に頼れる人もおらず、風邪をひいたときや怪我をしたときが心配である。
- ・授業に関することや就職に関することなど情報を友人や先輩から気軽に得ることができない。
- ・個人的な問題でもあると思うが、大学の人とほとんど会えていないので、友達も少なく、ゼミのクラスの人ですらあまり打ち解けられてない。
- ・周りの対面授業が増えた学部や学科の子は友達が増えたらしく、友達が増えないのは自分だけではないのか、という焦りや不安がある。
- ・人とのコミュニケーションが苦手なので、学生のうちに鍛えておきたいと思ったが、日常生活で人と関わる機会がなくなってしまった。
- ・大学・学部・学科全般の行事がなくなっている事や、海外を含めた人との交流がない事を心配に思います。他の世代に比べて、何の経験もしないまま大学を卒業する事になるのではないかと不安に思います。
- ・先輩や同期などとの関係性を築けないことで、頼れる人が出来ないことが心配です。話す人がいないとすぐに自分だけで思い詰めてしまうのでなんとかしたい。

授業

- ・一方的な授業をパソコンの前で受けてレポートやテストを出されるだけの日々になってしまいストレスが溜まっていく一方であること。
- ・オンライン授業で、課外が急激に増えて負担になっている。
- ・オンライン授業でテストが授業中の小テストのみの科目もあり、コロナ流行前に学んでいた先輩方と同等の学力が身に付いているのかどうか不安。
- ・今後授業をオンラインで受講した場合に、何らかの不利益を被らないかが心配。
- ・オンライン授業に慣れたことで対面授業が逆にきつくなっていること。

- ・実家暮らしのため、どうしても身内の所属団体で感染者が出た場合対策の観点から休んだ方が良いと思い欠席しているものの、欠席日数がかさんでしまう。
- ・ゼミ合宿ができない。
- ・コロナが蔓延し、卒業研究に支障が出ないかどうか心配。
- ・フィールドワークやインタビュー調査、地域連携活動などが難しい。

課外活動

- ・部活動や学外での学びの場などが制限されてしまっている。留学や旅行に自由に行けずにいる。
- ・サークル内のノウハウを後輩に引き継いでいないこと。
- ・文化祭が主な活動の場であったため、サークルの引継ぎが不安。
- ・学生生活でやりたいこと（社会人になってからはできないこと）ができない。
- ・大学で対面イベントを開催したいのだが、コロナの影響でできない。
- ・サークルで後輩の1～2年生と1回も顔合わせをしたことがないので、先輩としての役割を果たせていないこと。また、集まりをやろうと思ってもみんな萎縮してしまいなかなか開催が難しいこと。

就職活動

- ・就職活動がうまくいくか心配。
- ・こんなにコロナ渦が続くと、本当に就職ができなくなるのではないかと不安です。
- ・業種によってはかなり就職が困難になることが不安である。
- ・ガクチカができない。
- ・大学2、3年前期とほぼオンラインで授業を受けてきました。そのため、アルバイトで家から出ることはありますが、それ以外はほぼ家にいます。今後、就活が終わり、社会人になってしっかり働けるか心配です。
- ・今後、教育実習などの活動がきちんと行われるか不安に感じている。
- ・特に官公庁（市役所など地方自治体）のインターンシップの開催が減っていたり、対面でのインターンがIOP認定されないなどプログラム認定などにも影響が出ていること。

心身の健康

- ・外出頻度の減少による体力の低下と、生活習慣の乱れ。
- ・部屋にこもることが多くなり、気持ちがふさぎ込むことが増えた。
- ・外出を自粛する中で精神的に不安定になることも増えた。
- ・不特定多数と接する機会があるため、コロナウイルスに感染してしまうのではないかと不安がある。

その他

- ・このまま何もできないまま大学生活が終わってしまうのではないかという不安。
- ・授業でも課外活動でも就活についてでもなんでも、大学に関することを知らない、受け継いでいない。今まで行われていた普通がわからないため、漠然とした不安がある。
- ・レポート課題がある時に図書館が休館になってしまわないか心配。
- ・対面授業や交流に関して、2年生だけが取り残されている感じがする。
- ・夕飯に学食を利用できない。
- ・混んでいる電車やバスに乗ることに大きな抵抗があり、ラッシュを避けるために行動する時間帯を絞らざるを得ない。
- ・実家になかなか帰れない。

② 現在困っている事や大学に要請したい支援

80 件の回答があった。一部を抜粋して紹介する。

人間関係・交流

- ・学校側でなんでもいいので人と関わる機会を設けてほしい。
- ・1年生に対してはコミュニケーションを深める、仲良くなるために対面授業を用意しているらしいが2年生に対して入学式やレクリエーション、対面授業、その他交流を深めるような機会が用意されていないのはよく分からない。少ない人では2週間に1回しか対面授業がない。こんな環境で数万もする家賃を支払っているのはとても馬鹿馬鹿しく感じる。
- ・人との付き合いが減り、心のバランスを崩している学生が多いのではないかと思います。私も昨年の冬からストレスが原因の病気が悪化し、通院をしなければいけないほどになりました。経済的な支援と一緒に、精神的なケアも進めて欲しいと思います。

授業

- ・対面授業の増加。
- ・オンライン授業の続行。
- ・対面授業、もしくはハイブリッド授業を行ってください。お願いします。
- ・先生によって課題や試験で使うサイトがmanaba、ポータル、teamsとバラバラなのが、仕組みに慣れていない人や留学生には分かりづらいのではないかと思いますので、できるだけ統一してほしい。

就職活動

- ・就職活動の支援のインフォームをもっと行ってほしい。
- ・コロナ禍のためインターンシップ参加を控えたいと考えているが、インターンシップを行わない場合のデメリットや代替案などがあれば教えてほしい。
- ・就職活動が軒並みオンラインのみの規制をかけているために機会が奪われているように感じる。何とか規制を緩くすることはできないか。
- ・就職のカウンセリング、心理カウンセリングなどをお願いしたいです。

課外活動

- ・サークル活動の手続きが複雑すぎる。
- ・全体的な告知（サークル活動の許可関係）の告知が遅い。予定では6月半ばから一部活動再開が求められるような流れであったが実際、大学側からの動きがあったのは7月に入ってからだった。
- ・サークル、部活動を規制するのではなく対策をして活動を再開すべき。
- ・大学内で練習試合や大会ができるようにしてほしい

学費

- ・授業の質が落ちているにも拘わらず学費が減額されないことは納得いかない。
- ・十分な授業が行えていないのに関わらず、学費が例年通りの金額を支払っているのが納得できません。設備もほとんど利用していないのに設備費を支払う意味がわかりません。コロナ以前は設備も利用していたので、支払うのは当たり前だと思っていましたが、利用していないのに支払うのは難しいなあと感じます。
- ・講義の質や場所の提供が減ったことに対して、授業料が同じなのは如何程か。

支援

- ・以前の食糧支援に用事があって出られなかったため、可能であればもう一度開催していただけると助かります。
- ・郵送での食の支援。
- ・長期休みなどに地元へ帰省する際、PCR検査をした方がよいと思ったときに大学の支援の下できると良い。
- ・支援を行うと発表するのであれば初めから人数を提示してください。あんな惨めな生活はもう二度としたくないので。

留学

- ・（オンライン）留学しようとおもっても経済的な問題で参加をためらう。
- ・交換留学は今行っているのか、など長期留学に関する情報があれば公開していただきたいです。

その他

- ・予定していたアルバイトが急になくなって、生活費が苦しい。
- ・コロナ禍の影響で、入学後のオリエンテーションがなかったため、未だにキャンパス内の施設について把握しきれていない。そのため、キッチンカーで買った場合、お昼に食事が可能な空調が効いている場所が分からず、夏や冬に困っている。ないのなら、このような場所を整備して欲しい。また、あるのなら教えてほしい。
- ・茨城大学への交通アクセスが不便である。特に、茨城大学と赤塚駅間のバスが少なすぎる。コロナ禍の影響で前より本数が減ってしまった。本数が少ないために、バス内が密になっているように感じることもある。
- ・勉強の質問などをどこでしたらいいかわからない。

参考資料〈調査票〉

コロナ禍における学生生活調査 2021

茨城大学人文社会科学部労働経済論ゼミナールと同大学学生団体「学びと交流の秘密基地」は、茨城大学生を対象にコロナ禍の下での学生生活について調査しています。

コロナ禍における大学生の生活実態とニーズを明らかにして広く社会に知ってもらい、学生支援につなげることを目的としています。

この質問票の質問項目は 30-45 問程度で、所要時間は 5-15 分程度です。

調査結果は学生支援センターや大学生協、その他学生支援団体などに提出し、皆さんの学生生活の向上に役立つよう努力します。

また、アンケートの回答は統計的に処理され、特定の個人が識別できる情報として収集・公表されることはありません。

本調査の forms の URL の拡散等のご協力もよろしくお願いいたします。

回答期限は 8 月 11 日 24 時までとさせていただきます。

本調査は、茨城県共同募金会（赤い羽根共同募金）の助成を受け、茨城大学人文社会科学部市民共創教育研究センターの後援を受けています。

〈参考〉

- ①新型コロナウイルス感染症の影響による学生等の学生生活に関する調査（文部科学省）
- ②コロナ禍の影響を受けた大学生に対するアンケート調査報告書（フードバンク山梨）
- ③緊急！大学生・院生向けアンケート（全国大学生生活協同組合連合会）

1.所属

①性別

- ・男
- ・女
- ・その他

②学部

- ・人文社会科学部
- ・教育学部
- ・工学部
- ・理学部
- ・農学部

③学科

- ・現代社会学科
- ・法律経済学科
- ・人間文化学科

④学年

- ・1年
- ・2年
- ・3年
- ・4年

2.留学生

①あなたは外国人留学生ですか。

- ・はい
- ・いいえ

②国籍はどこですか。

- ・自由記述

③日本に留学している中で、コロナ禍の影響によって現在困っていることはありますか。

(複数選択可)

- ・帰国できない
- ・日本に入国できない
- ・ホームシックになっているなど、精神的に不安定
- ・日本の学生と交流する機会が少ない
- ・特にない
- ・その他（自由記述）

④コロナ禍の影響による、日本に留学後の帰国経験についてお伺いします。

- ・一時帰国し再入国した
- ・現在も帰国中である
- ・留学後はずっと日本に滞在している
- ・その他（自由記述）

3.授業

①現在、対面授業はどれくらいの頻度で行われていますか？

- ・週0日以下
- ・週1日
- ・週2~3日
- ・週4~5日
- ・週6~7日

②今後の授業形態の希望についてお伺いします。

- ・できるだけ対面で実施してほしい
- ・できるだけオンラインで実施してほしい
- ・同じ授業を対面でもオンラインでも受講できるようにしてほしい

③上の設問で選択した理由をお伺いします。できるだけ具体的に書いてください。

- ・自由記述

4.課外活動

①部活動・サークル・課外活動の加入状況についてお伺いします。

- ・加入している
- ・加入したいが、できていない
- ・加入していない

②加入していない・できていない理由をお伺いします。(複数選択可)

- ・もともと入る予定がなかったから。
- ・学業が忙しいから。
- ・アルバイトが忙しいから。
- ・お金がかかるから
- ・コロナウイルスの感染が心配だから。
- ・サークルに関する情報が不足していて、どこに加入すればいいか分からないから。
- ・興味のあるサークルはあったが、加入するタイミングを逃してしまったから。
- ・その他(自由記述)

③コロナ禍における部活・サークル・課外活動について困っていることはありますか。

(複数選択可)

- ・毎年参加していたイベントや大会が中止されている
- ・部員同士での話し合いができていない
- ・新入部員の確保や世代交代など、団体継続への不安がある
- ・活動場所の確保が困難になっている
- ・困っていない
- ・その他（自由記述）

④大学の課外活動の方針についてご意見、ご要望はありますか。

- ・自由記述

5.収入

①大学入学後のアルバイトについてお伺いします。

- ・現在アルバイトをしている
- ・していたが、2020年2月以前に辞めた
- ・していたが、2020年3月以降に辞めた
- ・大学入学後にアルバイトしたことはない

②現在行っているアルバイトの業種についてお伺いします。(複数選択可)

- ・教育業
- ・飲食業
- ・サービス業
- ・小売業
- ・日雇いのアルバイト
- ・その他（自由記述）

③アルバイトでの平均月収（長期休暇を除く）をお伺いします。回答欄には数字のみ記入してください。(例：40,000円→40000)

- ・自由記述（数字のみ）

④現在いくつのアルバイトをしていますか。

- ・1つのアルバイトだけしている
- ・2つのアルバイトをしている
- ・3つ以上のアルバイトをしている

⑤現在週に何日アルバイトをしていますか。数字のみ記入してください。

(例：週4日→4)

- ・自由記述（数字のみ記入できる方式）

⑥もし経済的な心配がなければ、アルバイトの日数を減らしたいですか。

- ・はい
- ・いいえ

⑦アルバイトのために課外授業を含めて学業面で学生生活に支障（マイナスの影響）が出ていると思いますか。

- ・大きく出ている
- ・やや出ている
- ・ほとんど出ていない
- ・出ていない

⑧アルバイトのためにサークルやボランティア活動などの課外活動面で学生生活に支（マイナスの影響）が出ていると思いますか。

- ・大きく出ている
- ・やや出ている
- ・ほとんど出ていない
- ・出ていない

⑨アルバイトのために就職活動（インターンシップや本選考等への参加など）の面で、学生生活に支障（マイナスの影響）が出ていると思いますか。

- ・大きく出ている
- ・やや出ている
- ・ほとんど出ていない
- ・出ていない

⑩2020年3月以降、新型コロナウイルスの感染拡大によるアルバイトへの影響はありましたか。(1度でも影響があった方は選択してください・複数選択可)

- ・シフトが減った
- ・シフトが増えた
- ・自分の意志でアルバイトを辞めた
- ・職場の都合でアルバイトを辞めざるを得なかった
- ・アルバイトを始めたくても始められなかった
- ・特に影響はなかった
- ・その他(自由記述)

⑪コロナの影響でアルバイトの収入に変化はありましたか。(2020年3月以降)

- ・増加した
- ・減少した
- ・変化していない

⑫最大でどれくらい減少しましたか(月額・数字のみ記入してください)。

- ・自由記述(数字のみ)

⑬コロナの影響で収入が減少した期間を月単位で記入してください。複数期間ある方はすべて記入してください。(例：2020年4月～6月・2021年1月)

- ・自由記述

⑭収入の減少分はどのようにしてカバーしましたか。(複数選択可)

- ・親に仕送りしてもらった
- ・奨学金の借入額を増やした
- ・アルバイトの掛け持ちを始めた
- ・支出を減らした
- ・貯金を切り崩した
- ・その他(自由記述)

6.経済支援

①昨年度から大学が行っている、新型コロナウイルス感染拡大に係る緊急経済支援を受けたことはありますか。

- ・受けたことがある
- ・申請したが、却下された
- ・制度を知っていたが、申請しなかった
- ・制度を知らず、申請しなかった。

②大学の経済支援の満足度についてお伺いします。

- ・満足である
- ・やや満足である
- ・やや不満である
- ・不満である
- ・特に意見はない

③やや不満である・不満であると回答した方のみにお伺いします。理由は何ですか。

(複数選択可)

- ・支援額が少ないから
- ・募集人数が少ないから
- ・募集時期が短いから
- ・募集開始が遅いから
- ・告知が不十分だから
- ・申し込む際の手続きが複雑だから
- ・その他（自由記述）

④大学の経済支援に対して、ご意見やご要望はありますか。

- ・自由記述

7.支出

①住居形態についてお伺いします。

- ・実家
- ・一人暮らし（賃貸）
- ・寮
- ・一人暮らしだったが、コロナの影響で現在は実家
- ・一人暮らしをする予定だったが、コロナの影響で実家

②生活費（家賃・電気代・ガス代・水道光熱費・通信費・食費等）は月にいくらかかっていますか。数字のみで記入してください。（例：60,000 円→60000）

- ・自由記述（数字のみ）

③大学入学以降で、経済的な理由で支払いが困難だったものはありますか。

（複数選択可）

- ・家賃
- ・通信費（電話代など）
- ・水道光熱費
- ・医療機関の受診をためらった
- ・特にない

④経済的な理由で支払いが困難で滞納したものがありますか。（複数選択可）

- ・家賃の滞納
- ・通信費（電話代など）の滞納
- ・水道光熱費の滞納
- ・医療費の滞納
- ・特にない
- ・その他（自由記述）

⑤支払いができなかったと回答した方は、その後どうやって対応したのかを具体的に教えてください。

- ・自由記述

⑥経済的な理由により、休学や退学を考えていますか。（複数選択可）

- ・考えていない
- ・休学や退学を検討したことがある
- ・現在、休学や退学を検討中である
- ・休学する予定である
- ・退学する予定である
- ・実際に休学したことがある

8.食生活

①食費は月にいくらかかっていますか。実家暮らしなどの理由で分からない場合は無記入でも大丈夫です。

- ・自由記述（数字のみ）

②経済的な理由で食生活に問題が生じたことはありますか。（複数選択可）

- ・食料の購入に困ったことがある
- ・食事を抜いたり、減らしたりしたことがある
- ・価格が高くて購入できないために、栄養のバランスが偏っている
- ・特にない
- ・その他（自由記述）

③これまでに、学生向けの食料支援を利用したことはありますか？

- ・利用したことがある
- ・利用したことはない

④今後、食料支援を受ける際に、配布や仕分け作業などのボランティアとしても参加してみたいですか。

- ・是非参加したい
- ・できれば参加してみたい
- ・参加を希望しない

⑤食料支援を利用した方にお伺いします。食料支援についての感想やご希望などをお聞かせください。（開催方法、周知、支援の内容等）

- ・自由記述

⑥食料の寄付や配布等ボランティアの方々へのメッセージなどがあれば記入してください。

- ・自由記述

⑦利用しなかった理由は何ですか。(複数選択可)

- ・支援があることを知らなかったから。
- ・食料の購入に困っていなかったから。
- ・大学が遠いなどの理由で、受け取りに行くのが困難だったから
- ・アルバイトがあったから
- ・アルバイト以外の理由があったから
- ・気持ちのうえで利用に抵抗感があったから
- ・その他（自由記述）

9.その他

①コロナの感染拡大の影響で学生生活に支障（マイナスの影響）が出ていると思いますか。

- ・大きく出ている
- ・少し出ている
- ・出していない

②心配なこと、困っていることは何ですか。できるだけ具体的に記入してください。

- ・自由記述

③現在学生生活を送る上で困っていて、支援してほしいことはありますか。

(複数選択可)

- ・経済的支援（授業料減免措置等）
- ・経済的支援（生活支援給付金）
- ・サークル活動
- ・就職活動
- ・留学支援
- ・アルバイトの斡旋・紹介等
- ・食料支援
- ・生理用品の配布
- ・日用品の配布
- ・マスクの配布
- ・学生同士で交流できるイベント
- ・特にない
- ・その他（自由記述）

④現在困っていることや大学に要請したいことがあれば、具体的に教えてください。

- ・自由記述

⑤今回のアンケートをもとに、一部の方に個別にお話を伺いたいと考えております。

インタビューにお答えいただける方は、お名前と大学のメールアドレスをご記入ください。

- ・名前と連絡先の記入欄を設定

【コロナ禍における学生生活調査 2021】

発行	2021 年 12 月 17 日 第 1 版
監修	清山 玲（茨城大学人文社会科学部教授）
企画	茨城大学学生団体 学びと交流の秘密基地
編集・執筆	星 龍汰（調査プロジェクト代表） 森 大起
実施	茨城大学労働経済論ゼミナール(茨城大学人文社会科学部法律経済学科)・ 茨城大学学生団体「学びと交流の秘密基地」 「コロナ禍における学生生活調査 2021」プロジェクトチーム